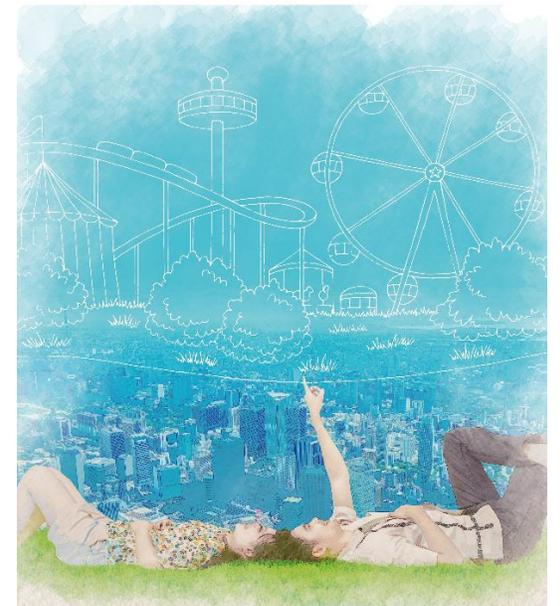


# 2021年度通期決算説明資料

2022年5月20日

SOMPOホールディングス株式会社



業績ハイライト	2
<b>1. 連結業績</b>	
2021年度決算概況（連結）	4
決算のポイント① 保険引受利益（損保ジャパン）	5
決算のポイント② 資産運用粗利益（損保ジャパン）	6
決算のポイント③ 連結経常利益	7
決算のポイント④ 連結純利益	8
2022年度通期業績予想（連結）	9
2022年度通期業績予想のポイント	10
（参考）通期業績予想（連結経常利益）のブレイクダウン	11
（参考）過去の業績進捗状況	12
（参考）経営数値目標等	13
<b>2. 国内損保事業</b>	
2021年度決算概況（損保ジャパン）	15
正味収入保険料	16
正味損害率（アード・インカード）	17
（参考）正味損害率（リトン・ペイド）	18
正味事業費率	19
コンバインド・レシオ	20
資産運用損益	21
（参考）資産運用粗利益の内訳	22
（参考）2022年度通期業績予想（損保ジャパン）	23
（参考）自動車保険関連の指標	24
（参考）火災保険、新種保険関連の指標	25
（参考）国内自然災害	26
（参考）責任準備金・支払備金	27

<b>3. 海外保険事業</b>	
業績概況（海外保険事業）	29
修正利益の増減要因	30
地域別業績	31
（参考）SIコマーシャル※の業績概況	32
（参考）SIコマーシャルの収益性関連の指標	33
（参考）SIコマーシャルの決算数値	34
<b>4. 国内生保事業</b>	
業績概況（ひまわり生命）	36
当期純利益（ひまわり生命）	37
（参考）修正利益・修正純資産	38
（参考）保有契約年換算保険料・一般事業費	39
（参考）MCEV	40
（参考）決算数値	41
<b>5. 介護・シニア事業</b>	
業績概況（介護・シニア事業）	43
SOMPOケアの主要指標	44
<b>6. ERM・資産運用</b>	
財務健全性：ESR（99.5%VaR）	46
（参考）実質自己資本・リスク量のブレイクダウン	47
資産ポートフォリオ（グループ連結ベース）	48
資産ポートフォリオ（損保ジャパン）	49
資産ポートフォリオ（SIコマーシャル）	50
資産ポートフォリオ（ひまわり生命）	51

為替レート（米ドル/円）

	2021年度	2022年3月末
	122.39円（対前年：+10.6%）	2022年3月末
	- 海外保険事業 115.02円（対前年：+11.1%）	2021年12月末
2022年度 通期業績予想	122.39円	2022年3月末

※ SIコマーシャルはSompoインターナショナルのコマーシャル部門を指す（以下同様）

# 業績ハイライト

- 2021年度の正味収入保険料は、SIコマースの大幅増収を主因に+2,921億円増の3兆2,157億円
- 損保ジャパンおよびSIコマースの増益により、連結純利益は+823億円増益の2,248億円、株主還元のための原資となる修正連結利益は+591億円増益の2,613億円と、2期連続で過去最高益更新
- 2022年度の連結純利益は、1,600億円と減益を見込むものの、修正連結利益は、2021年度と同水準の2,600億円を確保する計画

## 2021年度 実績

### 損保ジャパン

- 新型コロナ影響が一部剥落したものの、国内自然災害の減少もあり、コア保険引受利益は+177億円増益  
自動車保険E/I損害率 : 対前年+0.8pt上昇 (2019年度対比 △4.5pt低下)  
 自動車保険事故受付件数 : 対前年+1.3%増加 (2019年度対比 △4.1%減少)
- ファンドからの利配収入の増加などを主因に、資産運用粗利益は+168億円増益
- 当期純利益は+192億円増益の1,662億円

### SIコマース

- レートアップに加え、Diversified社の連結開始もあり、正味収入保険料は8,700億円と+43%の大幅増収
- 新型コロナによるマイナス影響の剥落などもあり、修正利益は+458億円増益

### ひまわり生命

- Insurhealth®商品を中心に、新契約年換算保険料は着実に拡大

### SOMPOケア

- 入居率上昇による売上高増加により、経常利益、純利益ともに増益

## 2022年度 予想

- 一過性影響の剥落や運用収益減を見込むものの、保険引受利益の増益がカバー、修正連結利益は前年同水準の2,600億円を見込む
- 損保ジャパンは、新型コロナ影響による損害率低下影響の剥落等を見込み、当期純利益は1,450億円
- SIコマースのトップライン拡大、コンバインド・レシオ改善などにより、海外保険事業の修正利益は+381億円増益

## 株主還元

- 9期連続増配 (含22年度配当予想) および580億円の自己株式取得を決定 (2021年度の総還元性向は58%)

# 1. 連結業績

2. 国内損保事業

---

3. 海外保険事業

---

4. 国内生保事業

---

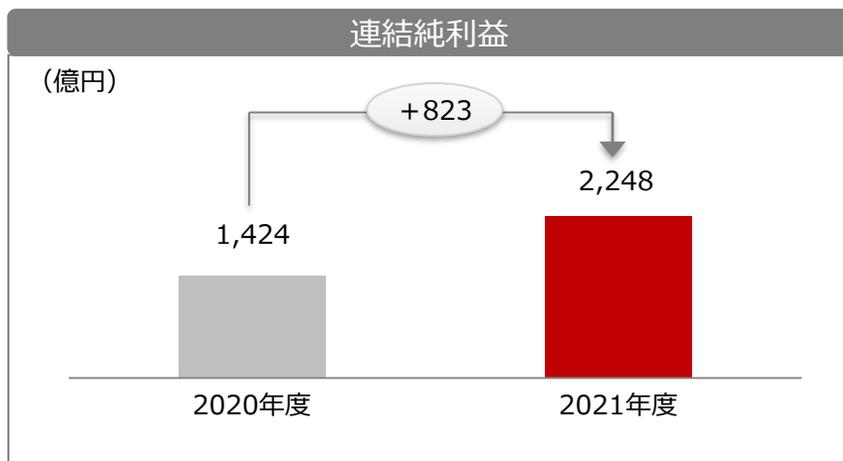
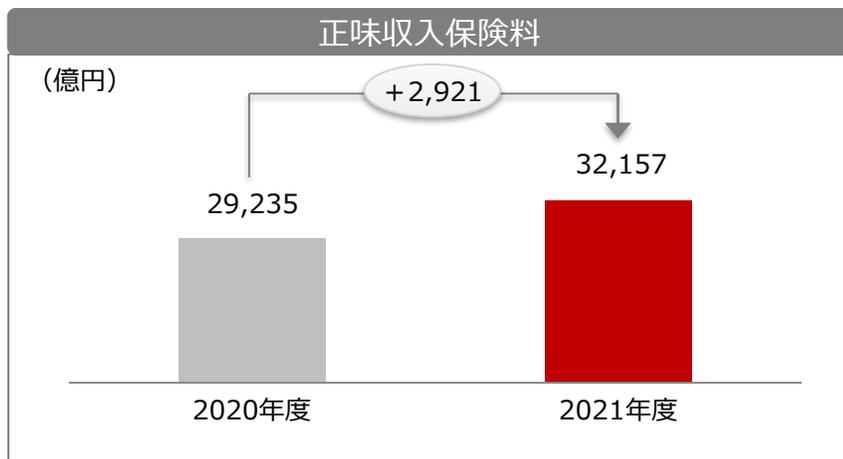
5. 介護・シニア事業

---

6. ERM・資産運用

## 2021年度決算概況（連結）

- 正味収入保険料は、SIコマースの大幅増収に加え、損保ジャパンでも火災保険や新種保険中心に拡大したことにより、+2,921億円増収
- SIコマースおよび損保ジャパンの増益に加えて、HDが保有する有価証券の売却益の影響もあり、連結経常利益・連結純利益とも大幅増益



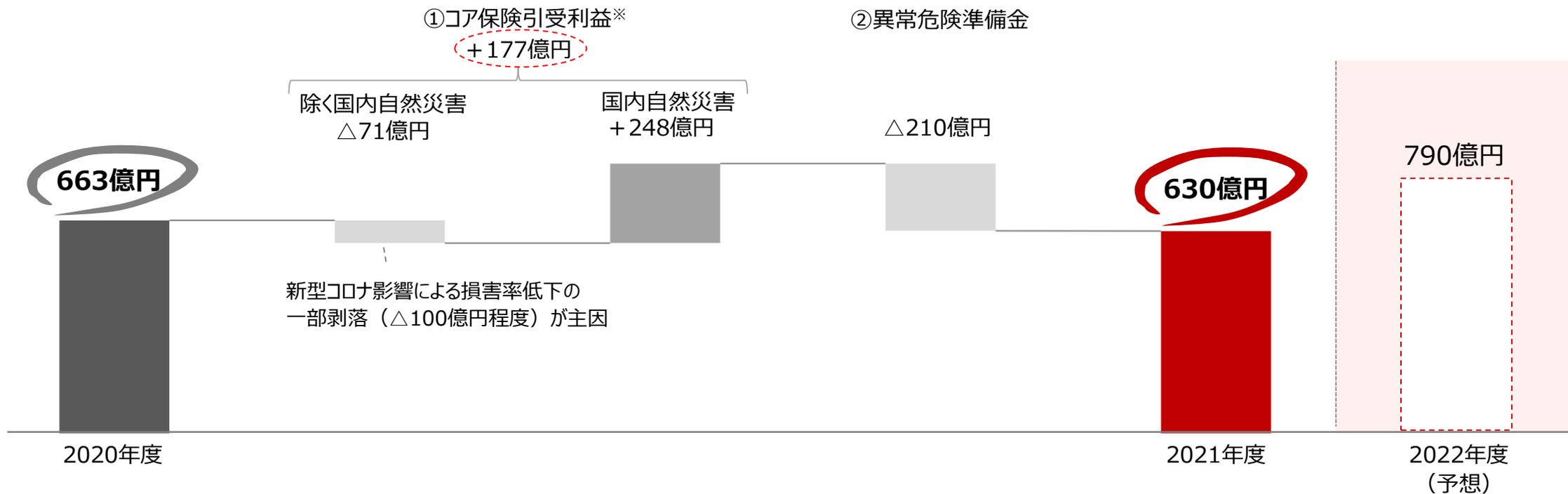
(単位：億円)	2020年度	2021年度	増減	2022年度 (予想)
連結経常収益	38,463	41,674	+3,211 (+8.4%)	-
正味収入保険料	29,235	32,157	+2,921 (+10.0%)	34,410
生命保険料	3,461	3,251	△209 (△6.1%)	3,270
連結経常利益	2,150	3,155	+1,004	2,350
損保ジャパン	1,974	2,108	+133	1,875
海外グループ会社	522	559	+37	1,245
ひまわり生命	289	232	△56	158
SOMPOケア	87	93	+5	89
その他・連結調整等※1	△723	160	+884	△1,018
連結純利益※2	1,424	2,248	+823	1,600
損保ジャパン	1,469	1,662	+192	1,450
海外グループ会社	358	388	+30	952
ひまわり生命	200	159	△41	105
SOMPOケア	53	59	+6	55
その他・連結調整等	△656	△20	+636	△963
(参考) 修正連結利益	2,021	2,613	+591	2,600
国内損保事業	1,301	1,574	+273	1,200
海外保険事業	300	618	+318	1,000
国内生保事業	338	336	△2	350
介護・シニア事業※3	81	59	△22	60
デジタル事業等	-	24	+24	10

※1 のれんの償却やHDが保有する有価証券売却損益等を含む ※2 連結純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す（以下同様） ※3 2020年度は介護・ヘルスケア事業等

# 決算のポイント① 保険引受利益（損保ジャパン）

- 国内自然災害の減少などにより、コア保険引受利益は+177億円増益の1,202億円

## 保険引受利益（損保ジャパン）の増減要因



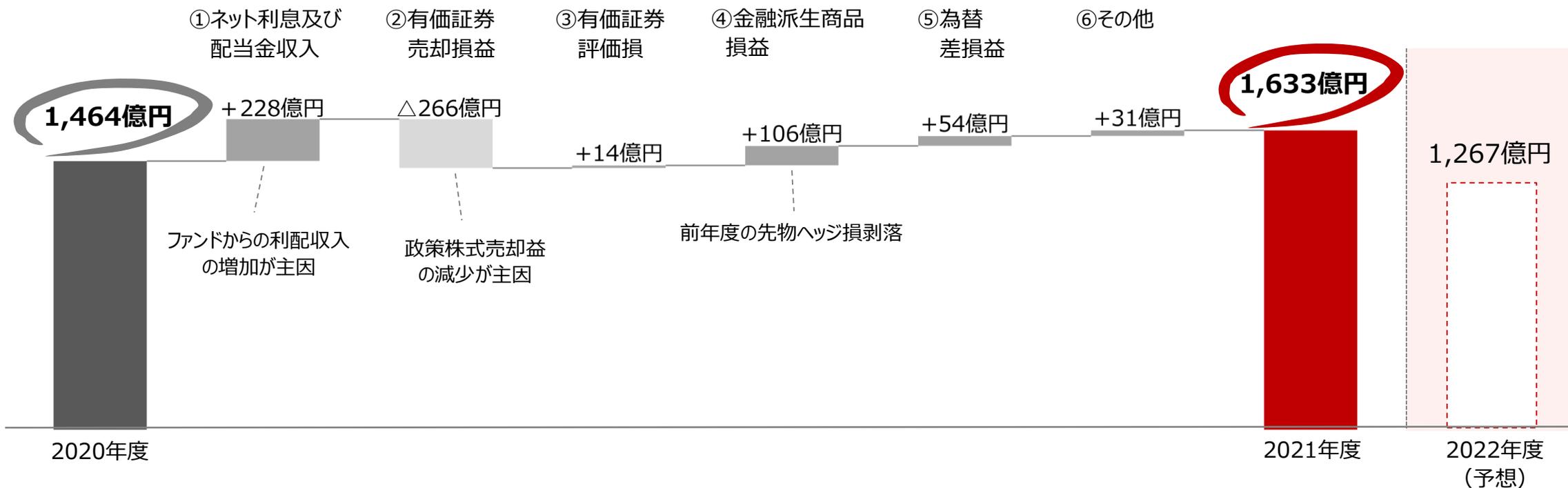
	①コア保険引受利益			②異常危険準備金	保険引受利益
		(除く国内自然災害)	(国内自然災害)		
2020年度	1,024億円	2,017億円	△993億円	△361億円	663億円
<b>2021年度</b>	<b>1,202億円</b>	<b>1,946億円</b>	<b>△744億円</b>	<b>△571億円</b>	<b>630億円</b>

※ コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

## 決算のポイント② 資産運用粗利益（損保ジャパン）

- 資産運用粗利益は、ネット利配収入の増加を主因に、+168億円増益の1,633億円

### 資産運用粗利益（損保ジャパン）の増減要因

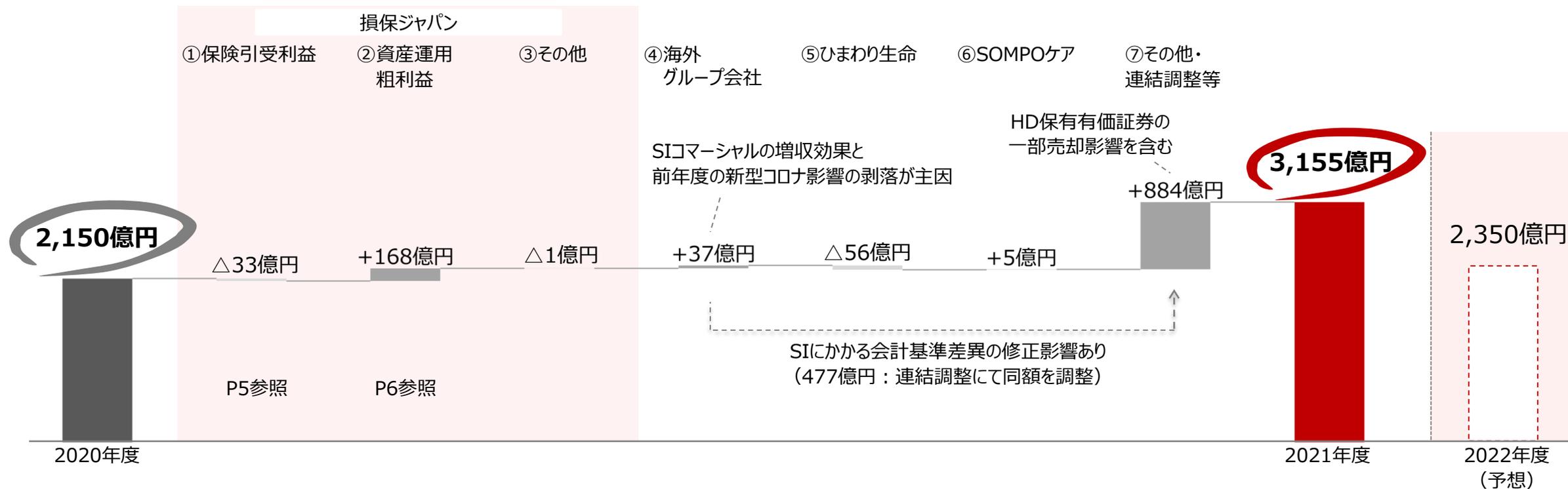


	①ネット利息及び配当金収入	②有価証券売却損益	③有価証券評価損	④金融派生商品損益	⑤為替差損益	⑥その他	資産運用粗利益
2020年度	941億円	648億円	△32億円	△130億円	45億円	△7億円	1,464億円
<b>2021年度</b>	<b>1,170億円</b>	<b>381億円</b>	<b>△18億円</b>	<b>△24億円</b>	<b>99億円</b>	<b>23億円</b>	<b>1,633億円</b>

# 決算のポイント③ 連結経常利益

- 連結経常利益は3,155億円と+1,004億円増益

## 連結経常利益の増減要因



	①保険引受利益	②資産運用粗利益	③その他	④海外グループ会社	⑤ひまわり生命	⑥SOMPOケア	⑦その他・連結調整等	連結経常利益
2020年度	663億円	1,464億円	△153億円	522億円	289億円	87億円	△723億円	2,150億円
<b>2021年度</b>	<b>630億円</b>	<b>1,633億円</b>	<b>△155億円</b>	<b>559億円</b>	<b>232億円</b>	<b>93億円</b>	<b>160億円*</b>	<b>3,155億円</b>

\* 2021年度のSIに係るのれん・無形固定資産等償却額（税前）は250億円

## 決算のポイント④ 連結純利益

- 連結純利益は2,248億円と+823億円の大幅増益

### 連結純利益の増減要因



	①損保ジャパン	②海外グループ会社	③ひまわり生命	④SOMPOケア	⑤その他・連結調整等	連結純利益
2020年度	1,469億円	358億円	200億円	53億円	△656億円	1,424億円
<b>2021年度</b>	<b>1,662億円</b>	<b>388億円</b>	<b>159億円</b>	<b>59億円</b>	<b>△20億円</b>	<b>2,248億円</b>

## 2022年度通期業績予想（連結）

(単位：億円)	2021年度 (実績)	2022年度 (予想)	対前年増減
正味収入保険料	32,157	34,410	+2,252
生命保険料	3,251	3,270	+18
連結経常利益	3,155	2,350	△805
損保ジャパン	2,108	1,875	△233
海外グループ会社	559	1,245	+685
ひまわり生命	232	158	△74
SOMPOケア	93	89	△4
その他・連結調整等	160	△1,018	△1,179
連結純利益	2,248	1,600	△648
損保ジャパン	1,662	1,450	△212
海外グループ会社	388	952	+564
ひまわり生命	159	105	△54
SOMPOケア	59	55	△3
その他・連結調整等	△20	△963	△943
(参考) 修正連結利益	2,613	2,600	△13
国内損保事業	1,574	1,200	△373
海外保険事業	618	1,000	+381
国内生保事業	336	350	+13
介護・シニア事業	59	60	+0
デジタル事業等	24	10	△14

## 2022年度通期業績予想のポイント

- 正味収入保険料は、SIコマーシャルでのトップライン増収効果を主因に、対前年 + 2,252億円の3兆4,410億円と予想
- HDが保有する有価証券の売却益や新型コロナ影響の剥落を主因に、連結経常利益は2,350億円、連結純利益は1,600億円を見込む
- 修正連結利益は、一過性要因の剥落影響を、国内外の保険引受利益の増益でカバーし、前年同水準の2,600億円となる見込み

### 損保ジャパン

- 新型コロナ影響による損害率低下が一定剥落するものの、火災保険の収益改善を主因に、保険引受利益は + 159億円増益
- 資産運用粗利益は、ヘッジコスト増加（110億円程度）などを織り込み、1,267億円（△365億円減益）
- 計画どおり、政策株式を500億円削減

### 海外保険事業

- SIコマーシャルでは、これまでの大幅レートアップなどもあり、既経過保険料は + 2,036億円（対前年 + 26%）増収
- 増収効果に加え、事業費等の改善もあり、SIコマーシャルのコンバインド・レシオは△3.2ptの改善（保険引受利益 + 439億円）
- 前年度のSompoセグロスでの一過性要因が剥落することもあり、海外保険事業の修正利益は + 381億円の増益

### ひまわり生命

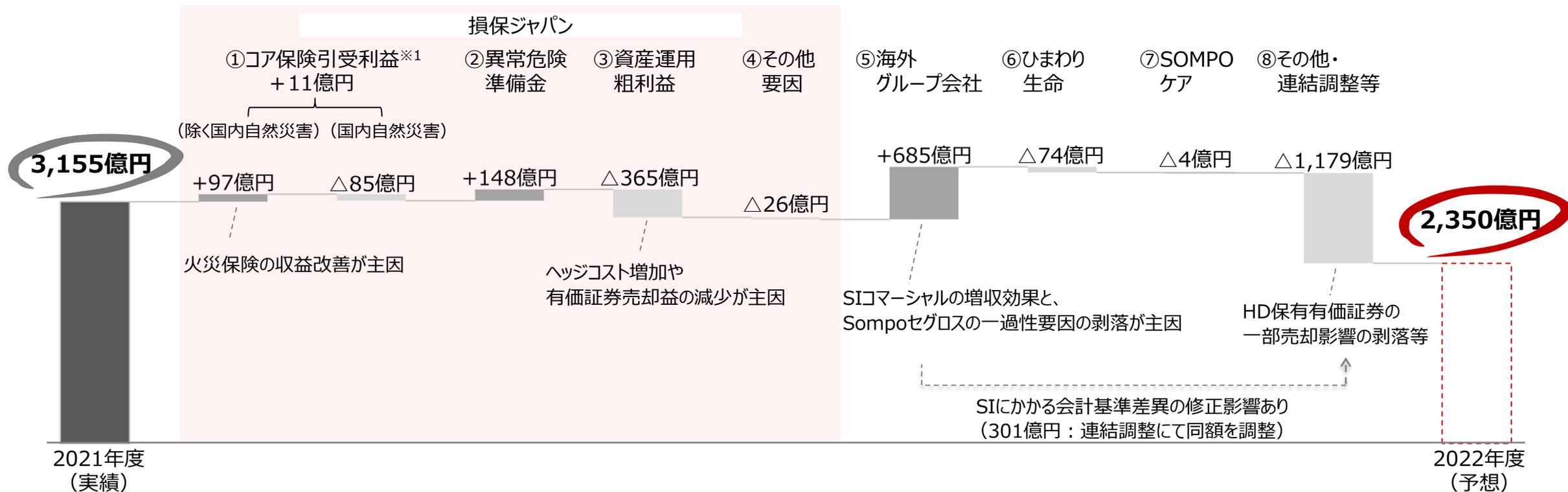
- 成長投資に伴い事業費が増加する一方、Insurhealth®商品を中心に収益性の高い保障性の新契約年換算保険料は拡大

### SOMPOケア

- 入居率改善（+ 1.8pt）に加えて、ネクサスケア社統合もあり、売上高は1,511億円（対前年 + 149億円）

# (参考) 通期業績予想 (連結経常利益) のブレイクダウン

## 連結経常利益の主要構成要素



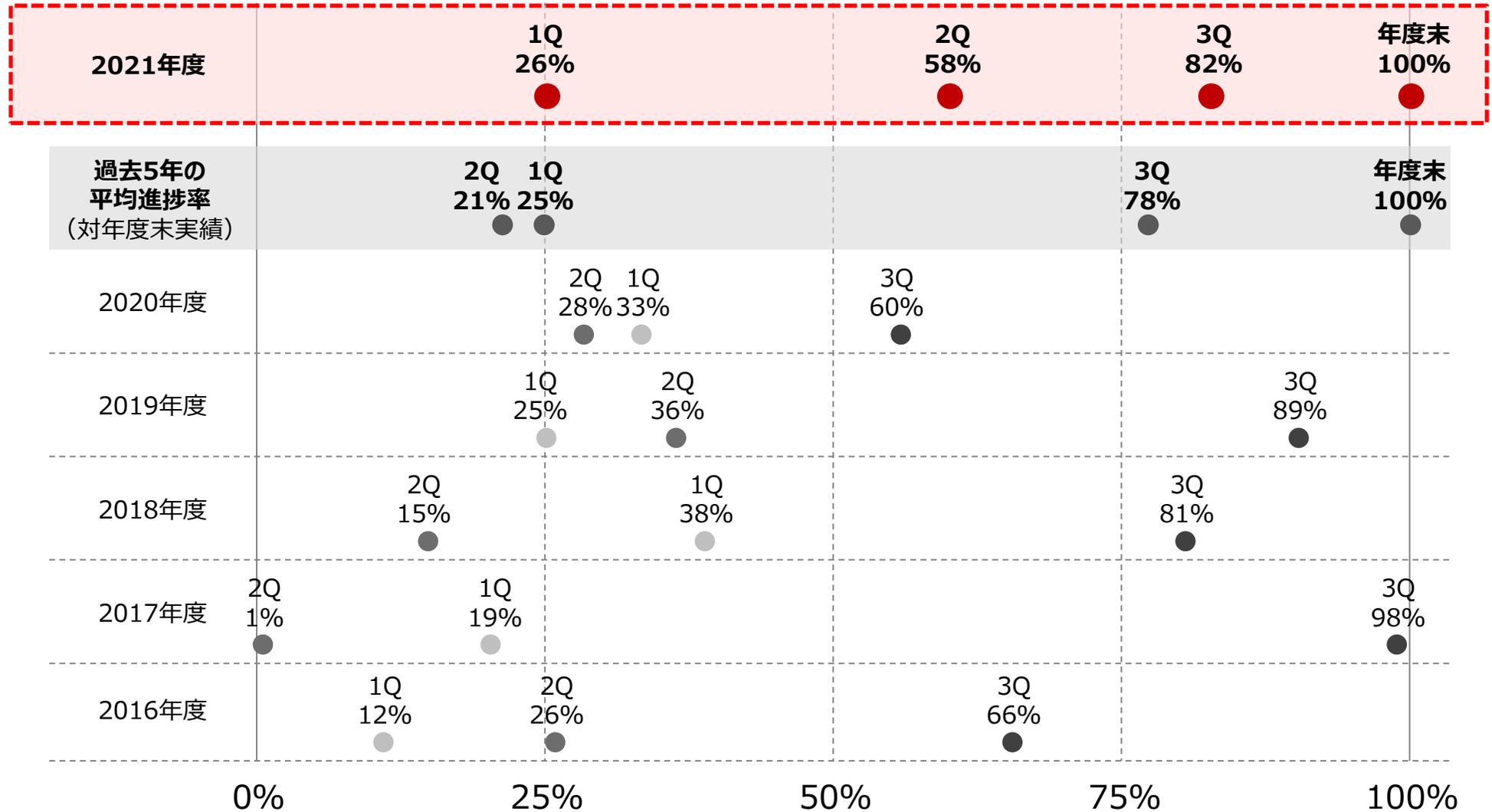
	①コア保険引受利益		②異常危険準備金	③資産運用粗利益	④その他要因	⑤海外グループ会社	⑥ひまわり生命	⑦SOMPOケア	⑧その他・連結調整等	連結経常利益
	(除く国内自然災害)	(国内自然災害)								
2021年度実績	1,946億円	△744億円	△571億円	1,633億円	△155億円	559億円	232億円	93億円	160億円	3,155億円
<b>2022年度予想</b>	<b>2,043億円</b>	<b>△830億円</b>	<b>△423億円</b>	<b>1,267億円</b>	<b>△182億円</b>	<b>1,245億円</b>	<b>158億円</b>	<b>89億円</b>	<b>△1,018億円※2</b>	<b>2,350億円</b>

※1 コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金に係る影響を除いたもの

※2 SI買収に伴うのれんは1,513百万ドル、無形固定資産を合わせた正味償却対象額は2,000百万ドル程度（買収時点）、のれんは10年、無形固定資産は適切な償却期間を設定、2022年度予想における正味償却対象額は199億円の見込み

## (参考) 過去の業績進捗状況

## 四半期の進捗率 (連結純利益)



## (参考) 経営数値目標等

## 計画数値

(単位：億円)	2021年度			2022年度		2023年度	
	(実績)	(対前年増減)	(事業別ROE) ※5	(予想)	(事業別ROE)	(計画)	(事業別ROE)
国内損保事業	1,574	+273	11.7%	1,200	8.7%	1,500以上	11.4%
海外保険事業	618	+318	7.1%	1,000	10.3%	1,000以上	11.6%
国内生保事業	336	△2	4.5%	350	4.8%	400以上	5.7%
介護・シニア事業※3	59	△22	10.7%	60	10.3%	80以上	14.3%
デジタル事業等	24	+24	-	10	-	20以上	-
<b>合計(修正連結利益)</b>	<b>2,613</b>	<b>+591</b>	<b>-</b>	<b>2,600</b>	<b>-</b>	<b>3,000以上</b>	<b>-</b>
<b>修正連結ROE※4</b>	<b>9.4%</b>	<b>+1.4pt</b>	<b>-</b>	<b>9.2%</b>	<b>-</b>	<b>10%以上</b>	<b>-</b>
ROE (J-GAAPベース)	11.1%	+3.2pt	-	7.9%	-	-	-

## 修正連結利益※1の定義

<b>国内損保事業</b>	
当期純利益 + 異常危険準備金繰入額等 (税引後) + 価格変動準備金繰入額 (税引後) - 有価証券の売却損益・評価損 (税引後)	
<b>海外保険事業</b>	
Operating Income※2 なお、持分法適用関連会社は、原則当期純利益	
<b>国内生保事業</b>	
当期純利益 + 危険準備金繰入額 (税引後) + 価格変動準備金繰入額 (税引後) + 責任準備金補正 (税引後) + 新契約費繰延 (税引後) - 新契約費償却 (税引後) - 有価証券の売却損益・評価損 (税引後)	
<b>介護・シニア事業</b>	<b>その他事業</b>
当期純利益	
<b>デジタル事業</b>	
当期純利益 - 投資に関する売却損益・評価損 (税引後)	

※1 事業部門別修正利益は、一過性の損益またはグループ会社配当等の特殊要因を除く

※2 一過性の変動要素を除いたOperating Income (= 当期純利益 - 為替損益 - 有価証券売却・評価損益 - 減損損失など)

※3 2020年度は介護・ヘルスクア事業等。修正利益 = 当期純利益 (一過性の損益を除く)

※4 修正連結ROE = 修正連結利益 ÷ 修正連結純資産 (分母は、期首・期末の平均残高)

修正連結純資産 = 連結純資産 (除く国内生保事業純資産) + 国内損保事業異常危険準備金等 (税引後) + 国内損保事業価格変動準備金 (税引後) + 国内生保事業修正純資産

国内生保事業修正純資産 = 国内生保事業純資産 (J-GAAP) + 危険準備金 (税引後) + 価格変動準備金 (税引後) + 責任準備金補正 (税引後) + 未償却新契約費 (税引後)

※5 事業別ROE = 事業部門別修正利益 ÷ 各事業への配賦資本 (事業に属する会社の連結純資産合計またはリスクモデルに基づく必要資本。期首・期末の平均)

事業別ROEは、各事業特性を踏まえ異なる定義で各々設定しているため、事業間比較には適さず、各事業の進捗モニタリングを通じて修正連結ROEおよび各事業別ROE目標値の達成確度を高めることを目的に導入

---

1. 連結業績

2. 国内損保事業

3. 海外保険事業

---

4. 国内生保事業

---

5. 介護・シニア事業

---

6. ERM・資産運用

## 2021年度決算概況（損保ジャパン）

- 資産運用粗利益の増加を主因に、当期純利益は+192億円増益の1,662億円

(単位：億円)	2020年度	2021年度	増減	2022年度 (予想)
正味収入保険料	21,414	21,587	+173 (+0.8%)	22,040
（除く自賠責・家計地震）	19,034	19,417	+382 (+2.0%)	19,876
既経過保険料（除く自賠責・家計地震）	18,857	19,377	+520 (+2.8%)	19,808
E/I損害率（除く自賠責・家計地震）	59.9%	59.1%	△0.8pt	59.3%
正味損害率	60.8%	59.8%	△1.1pt	61.3%
（除く自賠責・家計地震）	58.4%	57.4%	△1.0pt	59.1%
正味事業費率	33.6%	33.7%	+0.1pt	33.8%
（除く自賠責・家計地震）	34.5%	34.5%	+0.0pt	34.4%
コンバインド・レシオ（E/I）※1（除く自賠責・家計地震）	94.3%	93.5%	△0.8pt	93.7%
（参考）コンバインド・レシオ（W/P）（除く自賠責・家計地震）	92.9%	91.9%	△1.0pt	93.5%
保険引受利益	663	630	△33	790
資産運用粗利益	1,464	1,633	+168	1,267
経常利益	1,974	2,108	+133	1,875
当期純利益	1,469	1,662	+192	1,450
(参考)				
異常危険準備金繰入額等（税引後）	+262	+418	+155	+310
価格変動準備金繰入額（税引後）	+28	+30	+1	+29
有価証券売却損益・評価損（税引後）	△435	△258	+176	△101
特殊要因（税引後）※2	△44	△289	△244	△478
修正利益	1,281	1,562	+281	1,210

※1 E/I損害率 + 正味事業費率（以下同様）

※2 グループ会社配当、株式先物関連損益等

# 正味収入保険料

- 2021年度は火災保険・新種保険が好調に推移、引き続きトップライン拡大を目指す

## 正味収入保険料

(単位：億円)	2020年度	2021年度	増減	2022年度 (予想)
火災	3,063	3,276	+212 (+6.9%)	3,521
海上	405	468	+62 (+15.4%)	480
傷害	1,521	1,516	△4 (△0.3%)	1,571
自動車	10,898	10,877	△20 (△0.2%)	10,900
自賠責	2,376	2,168	△208 (△8.8%)	2,160
その他	3,148	3,280	+131 (+4.2%)	3,404
うち賠償責任	1,588	1,593	+5 (+0.3%)	1,612
合計	21,414	21,587	+173 (+0.8%)	22,040
合計 (除く自賠責・家計地震)	19,034	19,417	+382 (+2.0%)	19,876

(主な増減要因)

火災：商品改定による料率適正化、企業分野の増収などにより堅調に推移

自動車：フリートを主因にやや減収するも、料率適正化等の効果発現により一部相殺

その他：主力商品の「ビジネスマスター・プラス」は引き続き好調

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料  
前年同期比 (2021年4月～2022年3月)

(営業成績保険料ベース)

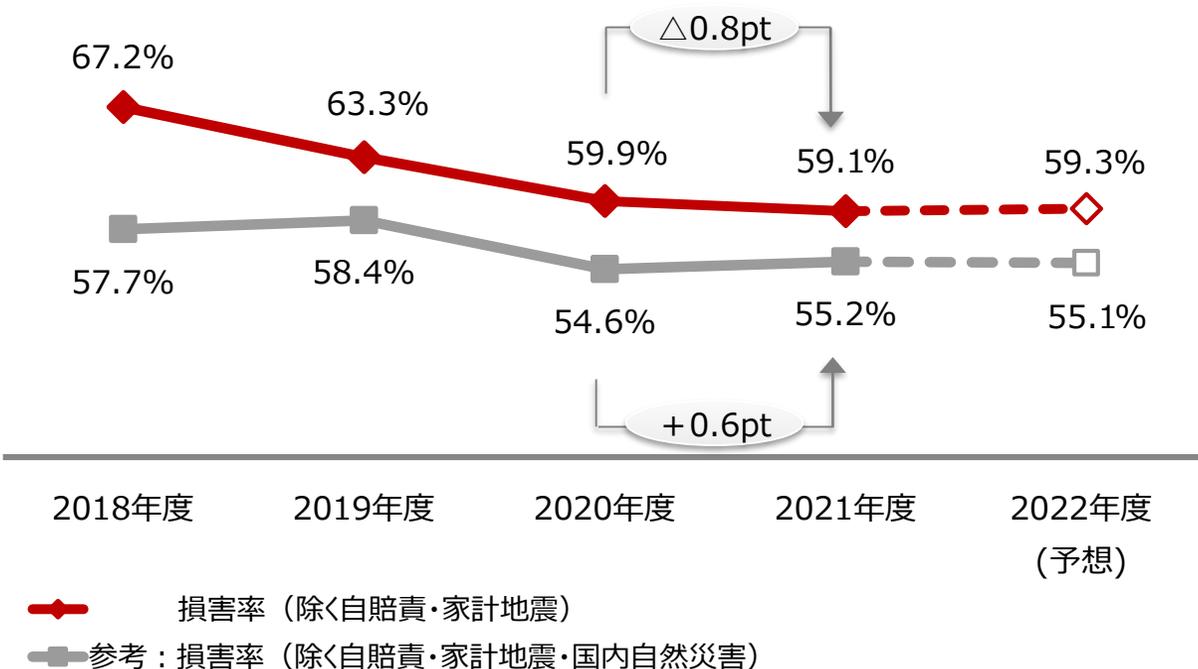
	台数※	単価	保険料
ノンフリート	△0.8%	+0.5%	△0.3%
フリート	△0.8%	△1.5%	△2.3%
合計	△0.8%	+0.2%	△0.6%

※ 時間単位型自動車保険 乗るピタ! を除く

# 正味損害率（アード・インカード）

- 新型コロナ影響による損害率改善効果が一部剥落する中、国内自然災害の減少などにより、E/I損害率は対前年で△0.8pt改善
- 2022年度も、新型コロナ影響の剥落があるものの、火災保険の料率適正化等の効果発現により対前年同水準を見込む

## E/I損害率の推移



(参考) 種目別E/I損害率	2021年度		2022年度 (予想)
	損害率	増減	損害率
火災 (除く家計地震)	73.9%	△14.5pt	68.2%
海上	57.1%	△0.9pt	61.4%
傷害	51.8%	+7.0pt	50.8%
自動車	55.7%	+0.8pt	57.4%
その他	59.3%	+0.6pt	59.7%
合計 (除く自賠償・家計地震)	59.1%	△0.8pt	59.3%

### (主な増減要因)

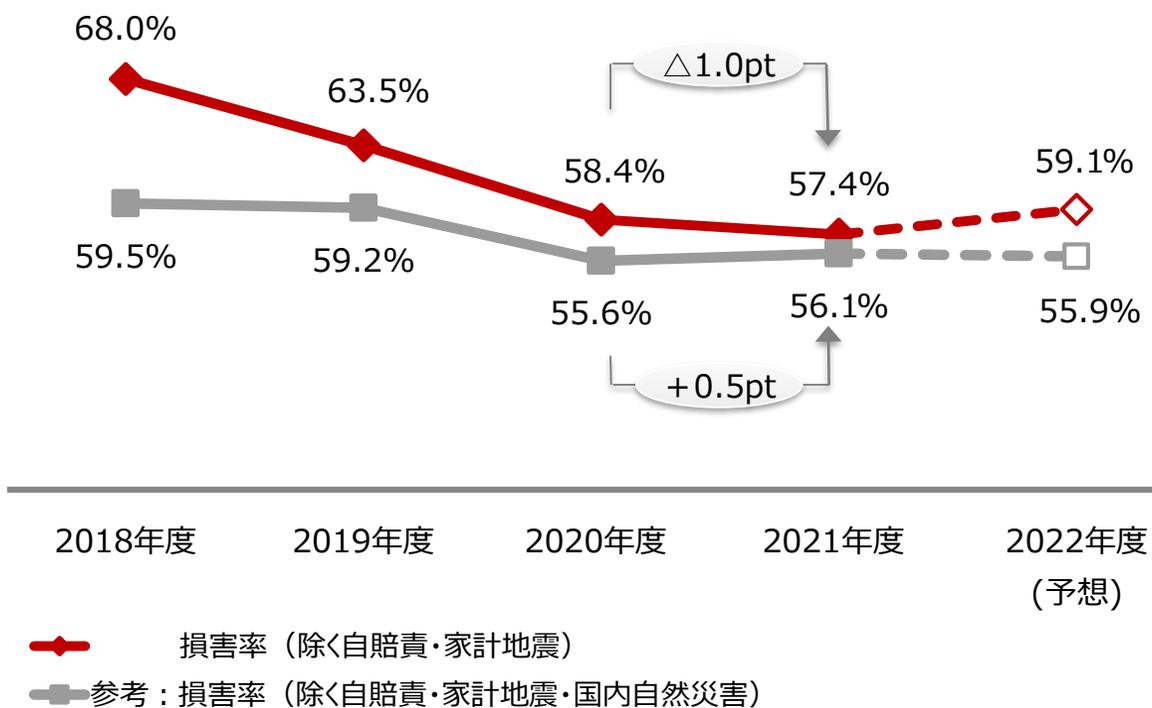
火災：国内自然災害の減少による改善

傷害：旅行保険を中心とした新型コロナ影響剥落による上昇

自動車：交通量増加に伴う上昇

# (参考) 正味損害率 (リトン・ペイド)

## 正味損害率の推移

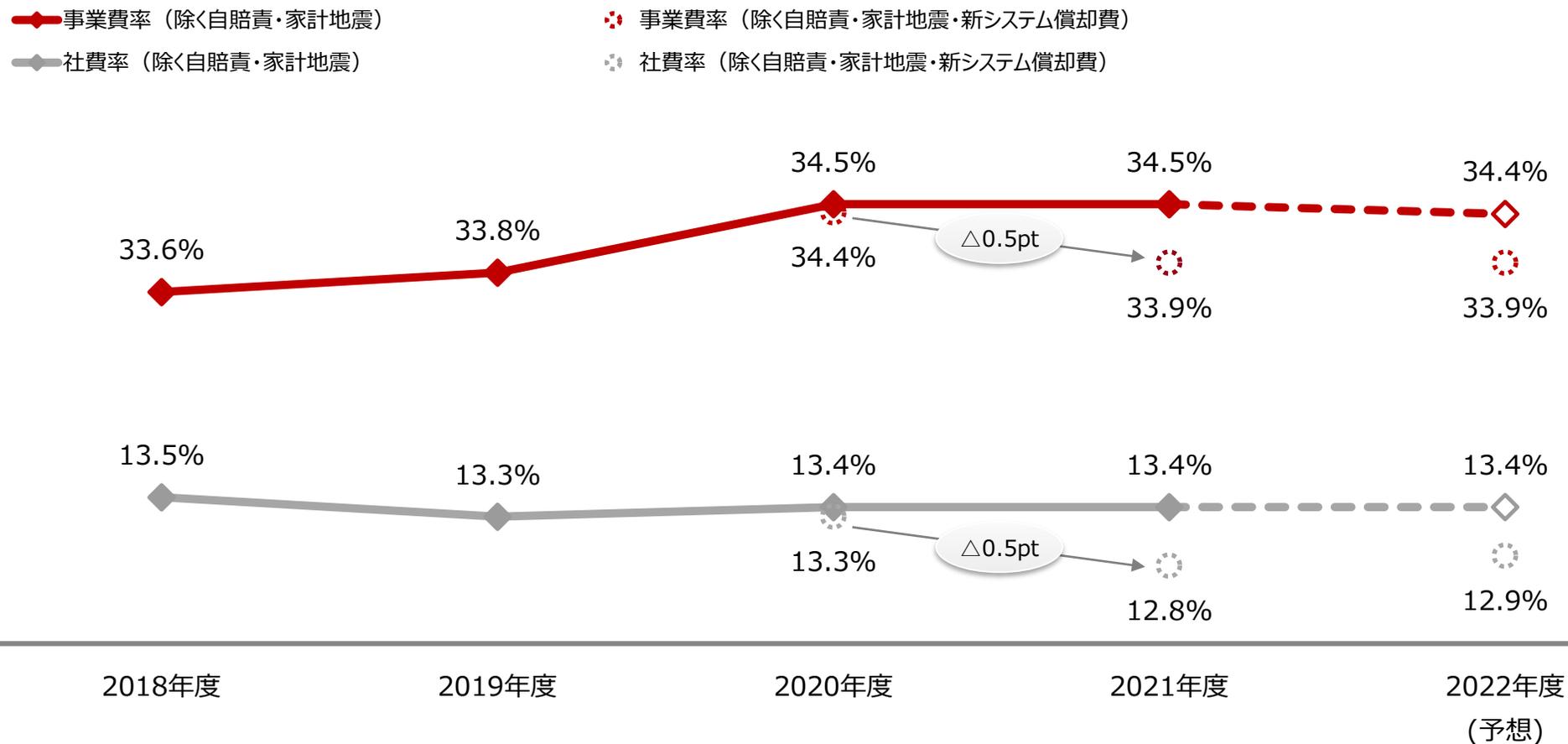


(参考) 種目別W/P損害率	2021年度		2022年度 (予想)
	損害率	増減	損害率
火災 (除く家計地震)	67.9%	△4.3pt	71.1%
海上	51.7%	△12.7pt	60.1%
傷害	50.1%	△0.7pt	49.4%
自動車	56.0%	+0.5pt	56.5%
その他	55.5%	△2.4pt	59.1%
合計 (除く自賠償・家計地震)	57.4%	△1.0pt	59.1%

# 正味事業費率

- 新システムの一部カットオーバーに伴う償却費を除くと、事業費率、社費率ともに $\Delta 0.5\text{pt}$ 改善

## 事業費率・社費率※（除く自賠責・家計地震）の推移

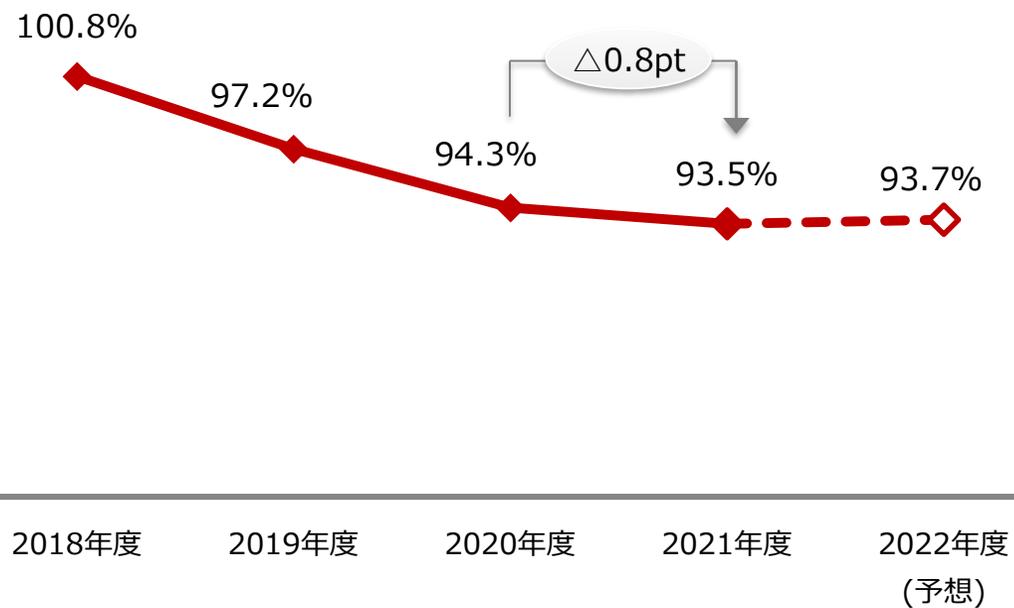


※ 保険引受に係る営業費および一般管理費の正味収入保険料に対する比率

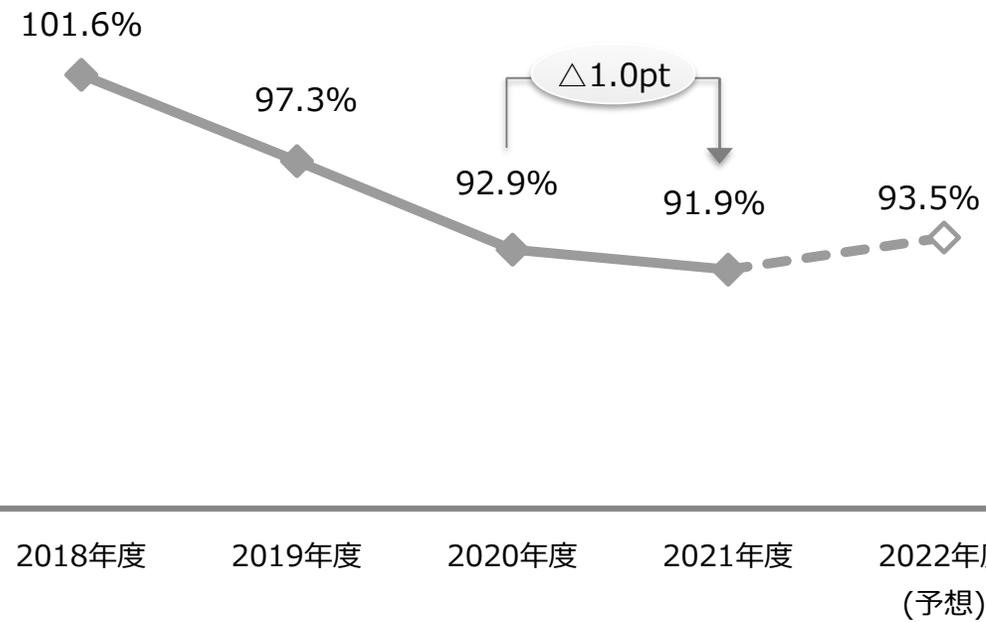
# コンバインド・レシオ

- コンバインド・レシオは $\Delta 0.8$ pt改善の93.5%

## コンバインド・レシオ (E/I) (除く自賠責・家計地震)



## (参考) コンバインド・レシオ (W/P) (除く自賠責・家計地震)



## 資産運用損益

- ファンドからの利配収入の増加を主因に、資産運用粗利益は+168億円増益の1,633億円

### 資産運用粗利益（損保ジャパン）

(単位：億円)		2020年度	2021年度	増減	2022年度 (予想)
ネット利息及び配当金収入	①	941	1,170	+228	1,182
利息及び配当金収入※		1,261	1,479	+218	1,470
（うち海外子会社配当金）		112	312	+199	491
有価証券売却損益※	②	648	381	△266	266
（うち国内株式）		521	386	△134	300
有価証券評価損	③	△32	△18	+14	△90
（うち国内株式）		△22	△15	+7	△50
金融派生商品損益	④	△130	△24	+106	△112
為替差損益	⑤	45	99	+54	△3
その他損益	⑥	△7	23	+31	23
資産運用粗利益	（①～⑥計）	1,464	1,633	+168	1,267

（参考）政策株式削減額

501億円

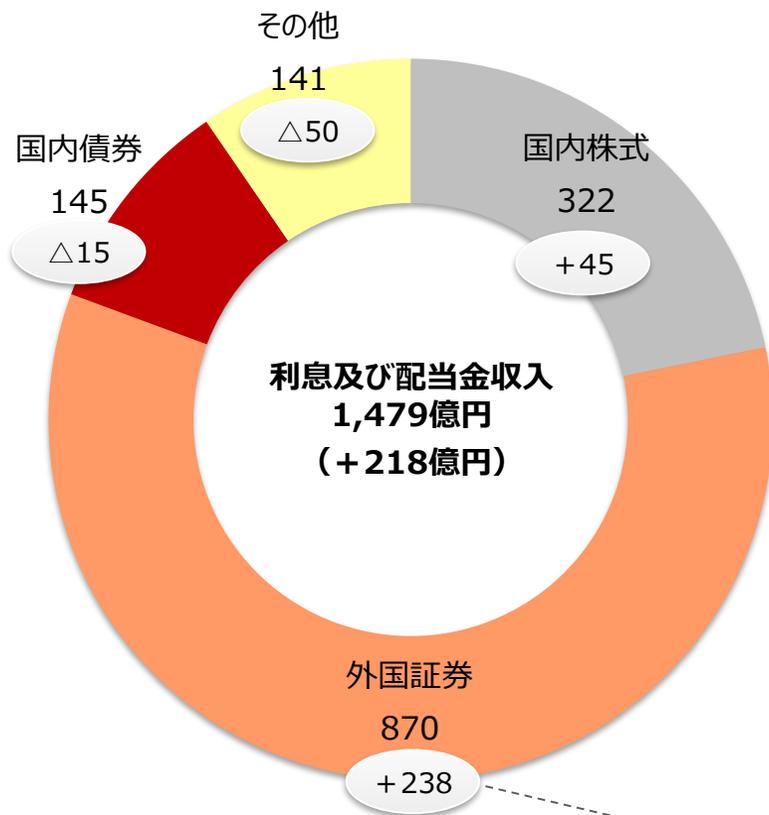
時価ベースのネット削減額  
（売却時価－購入時価）

※ 内訳は次ページ参照

## (参考) 資産運用粗利益の内訳

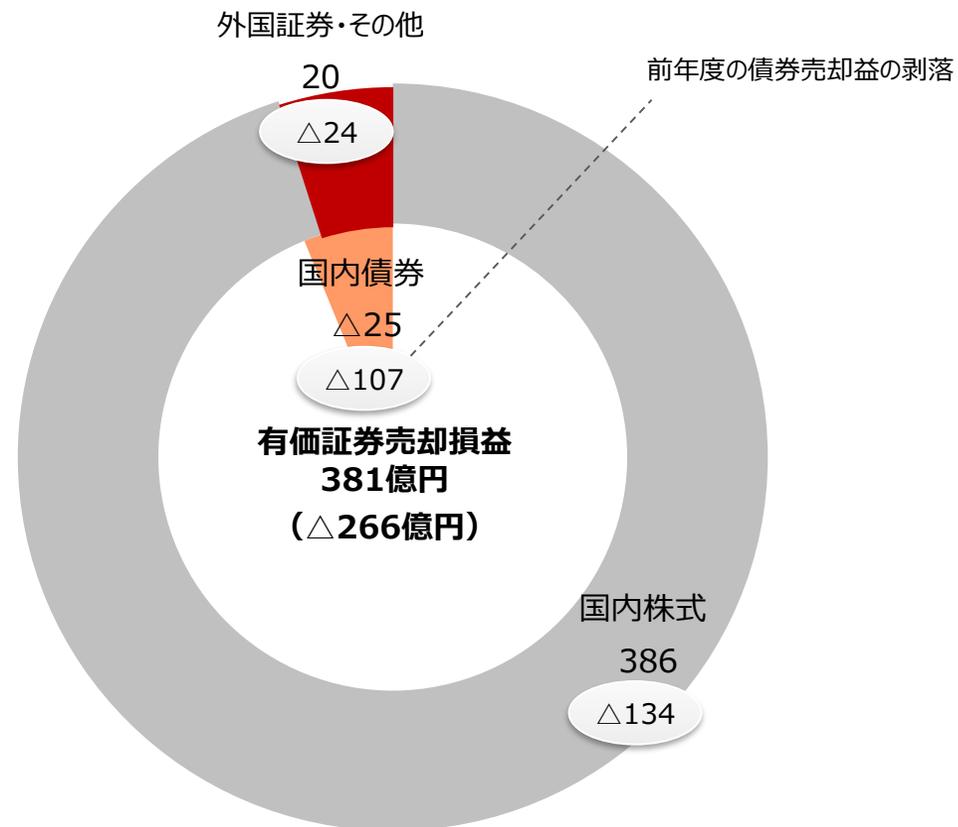
### 利息及び配当金収入・有価証券売却損益の内訳 (2021年度)

(億円)



ファンドからの利配収入増加が主因

○ : 2020年度対比の増減額



前年度の債券売却益の剥落

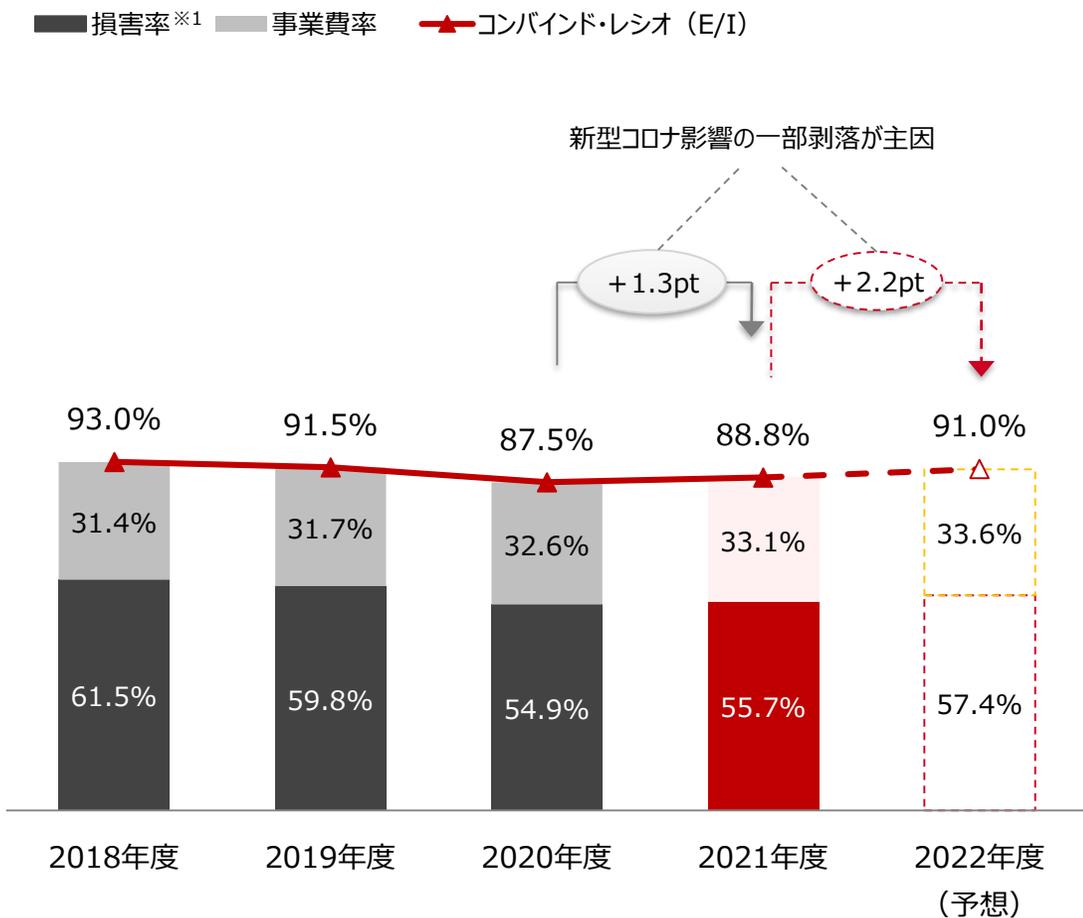
# (参考) 2022年度通期業績予想 (損保ジャパン)

(単位：億円)	2021年度 (実績)	2022年度 (予想)	増減
正味収入保険料	21,587	22,040	+452 (+2.1%)
(除く自賠責・家計地震)	19,417	19,876	+459 (+2.4%)
既経過保険料 (除く自賠責・家計地震)	19,377	19,808	+431 (+2.2%)
E/I損害率 (除く自賠責・家計地震)	59.1%	59.3%	+0.2pt
正味損害率	59.8%	61.3%	+1.5pt
(除く自賠責・家計地震)	57.4%	59.1%	+1.7pt
正味事業費率	33.7%	33.8%	+0.0pt
(除く自賠責・家計地震)	34.5%	34.4%	△0.0pt
コンバインド・レシオ (E/I) (除く自賠責・家計地震)	93.5%	93.7%	+0.2pt
(参考) コンバインド・レシオ (W/P) (除く自賠責・家計地震)	91.9%	93.5%	+1.6pt
保険引受利益	630	790	+159 (+25.3%)
資産運用粗利益	1,633	1,267	△365 (△22.4%)
経常利益	2,108	1,875	△233 (△11.1%)
当期純利益	1,662	1,450	△212 (△12.8%)
(参考) 修正利益			
異常危険準備金繰入額等 (税引後)	+418	+310	△107
価格変動準備金繰入額 (税引後)	+30	+29	△0
有価証券売却損益・評価損 (税引後)	△258	△101	+156
特殊要因 (税引後) ※	△289	△478	△188
修正利益	1,562	1,210	△352

※ グループ会社配当など

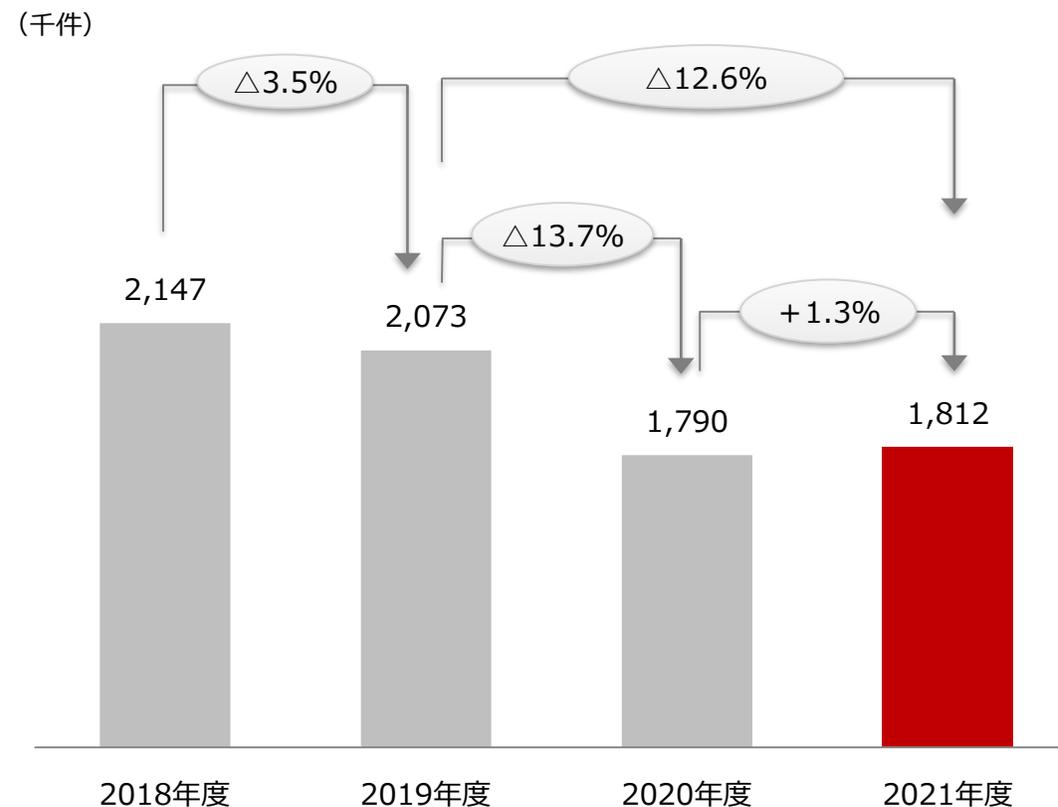
# (参考) 自動車保険関連の指標

## コンバインド・レシオ (E/I) の推移



※1 損害率はE/Iベース (含む損調費)

## 事故受付件数※2の推移

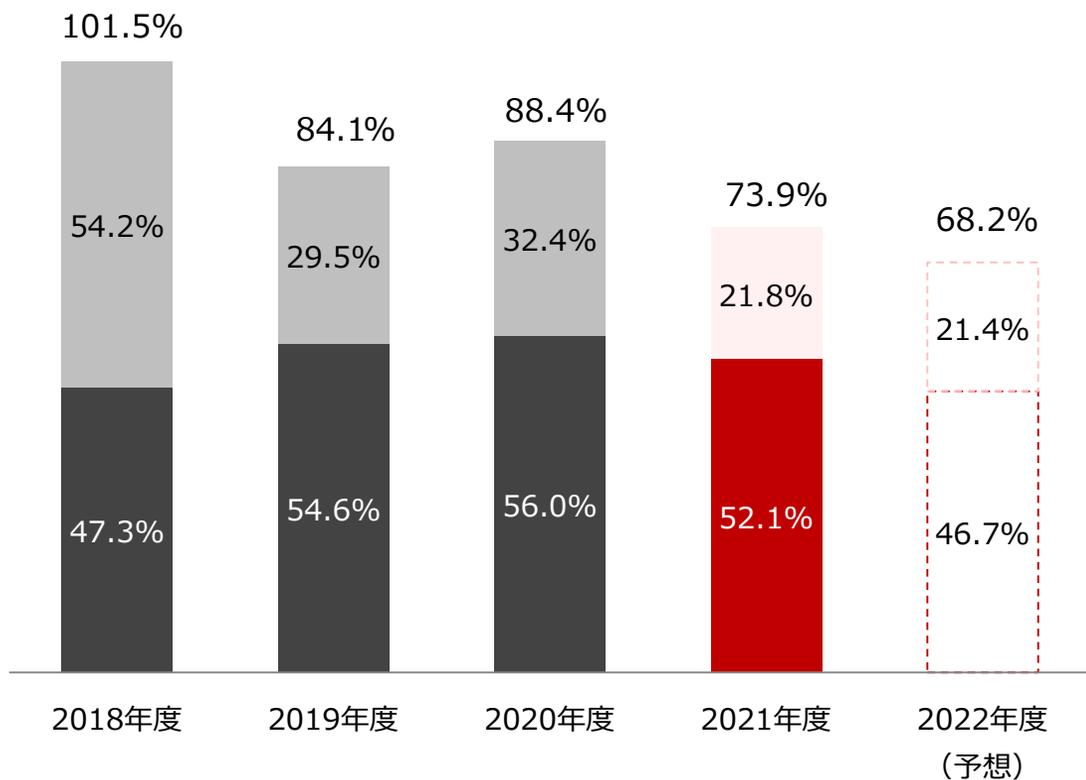


※2 発生損害が一定額を超過した自然災害に係る件数を除く

# (参考) 火災保険、新種保険関連の指標

## 火災保険※のE/I損害率の推移

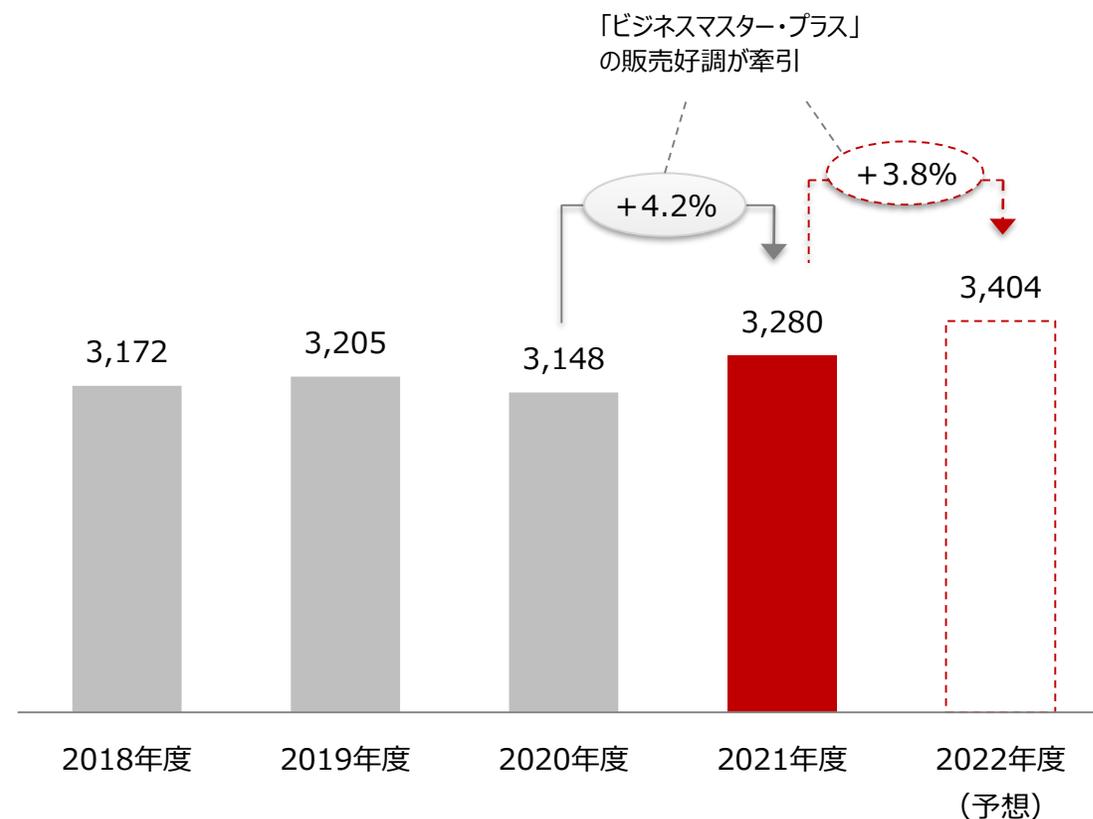
- 火災保険損害率 (除く国内自然災害)
- 火災保険損害率 (国内自然災害)



※ 除く家計地震

## 新種保険正味収入保険料の推移

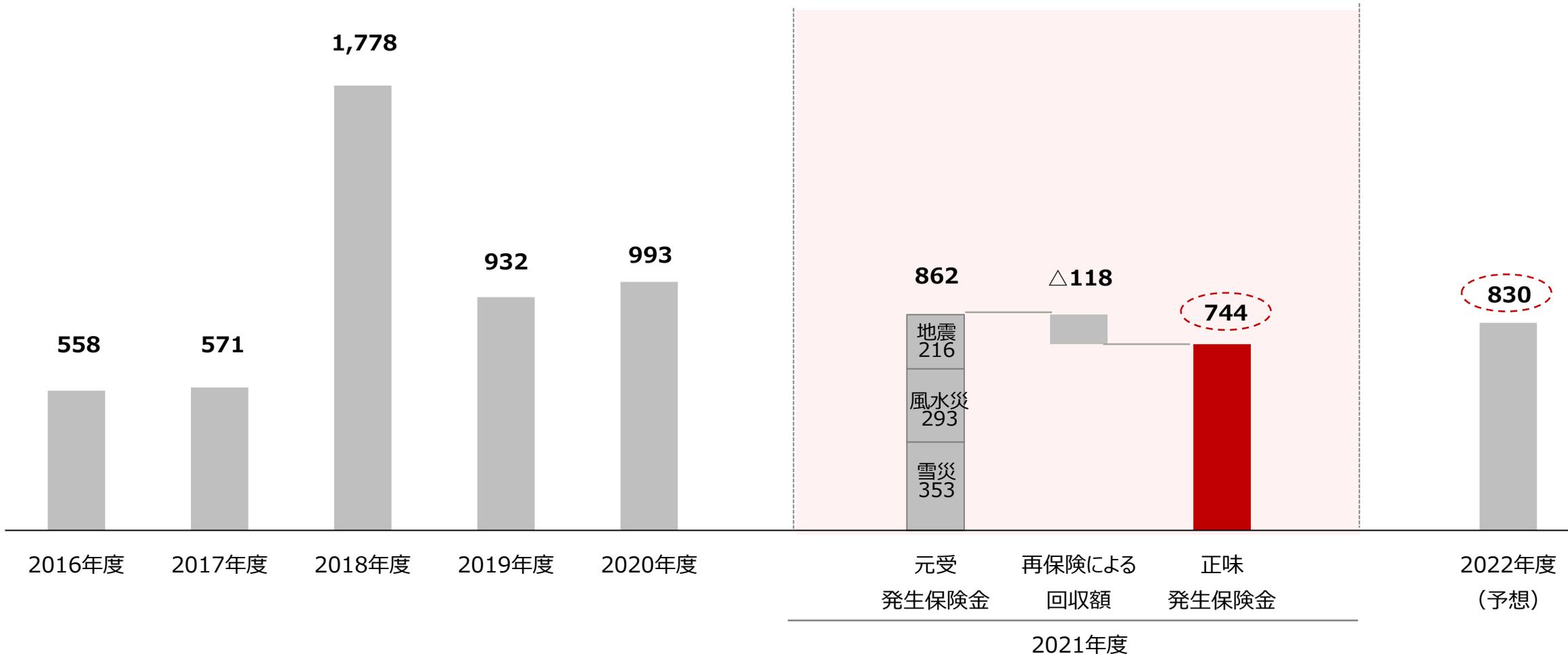
(億円)



## (参考) 国内自然災害

### 国内自然災害の正味発生損害（当年度発生）※

(億円)



※ 除く自賠責・家計地震

## (参考) 責任準備金・支払備金

### 責任準備金・支払備金 (2021年度)

(単位：億円)

	普通責任準備金 <sup>※1</sup>		異常危険準備金		支払備金	
	残高	積増額	残高	積増額	残高	積増額
火災 <sup>※2</sup>	7,840	+88	1,146	+109	1,548	+124
海上	222	+22	455	+14	231	+16
傷害	1,281	+7	812	+48	470	+21
自動車	3,173	△30	1,063	+352	3,692	△18
自賠責 <sup>※2</sup>	4,595	△25	-	-	622	△3
その他	3,446	△14	2,034	+46	2,435	+136
合計	20,559	+48	5,512	+571	9,001	+276
合計 (除く自賠責・家計地震)	15,931	+75	5,512	+571	8,378	+301
	残高	積増額				積増額
長期性資産 <sup>※3</sup>	10,476	△908			外貨建支払備金の為替影響	+49

※1 積立保険以外に係る払戻積立金を含む

※2 地震保険および自賠責保険に係る責任準備金は普通責任準備金に含む

※3 払戻積立金と契約者配当金として積み立てられている積立保険の収入積立保険料とその運用益の累積残

---

1. 連結業績

---

2. 国内損保事業

3. 海外保険事業

4. 国内生保事業

---

5. 介護・シニア事業

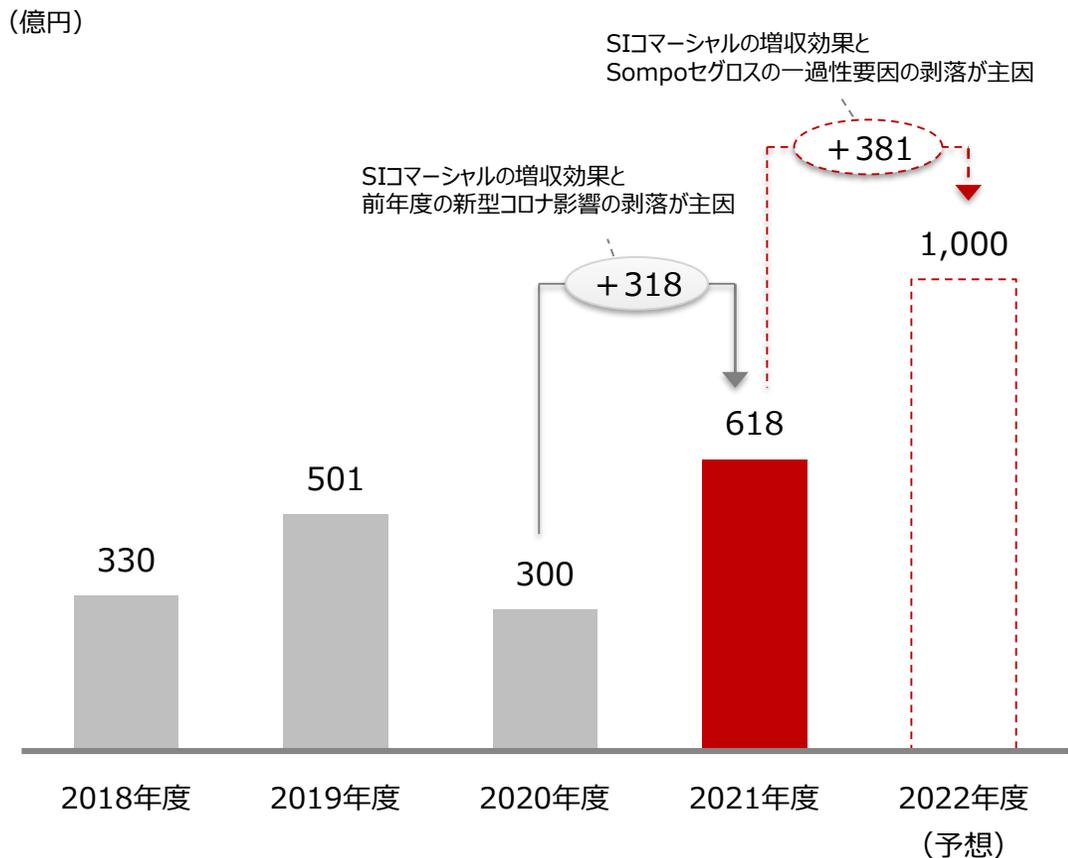
---

6. ERM・資産運用

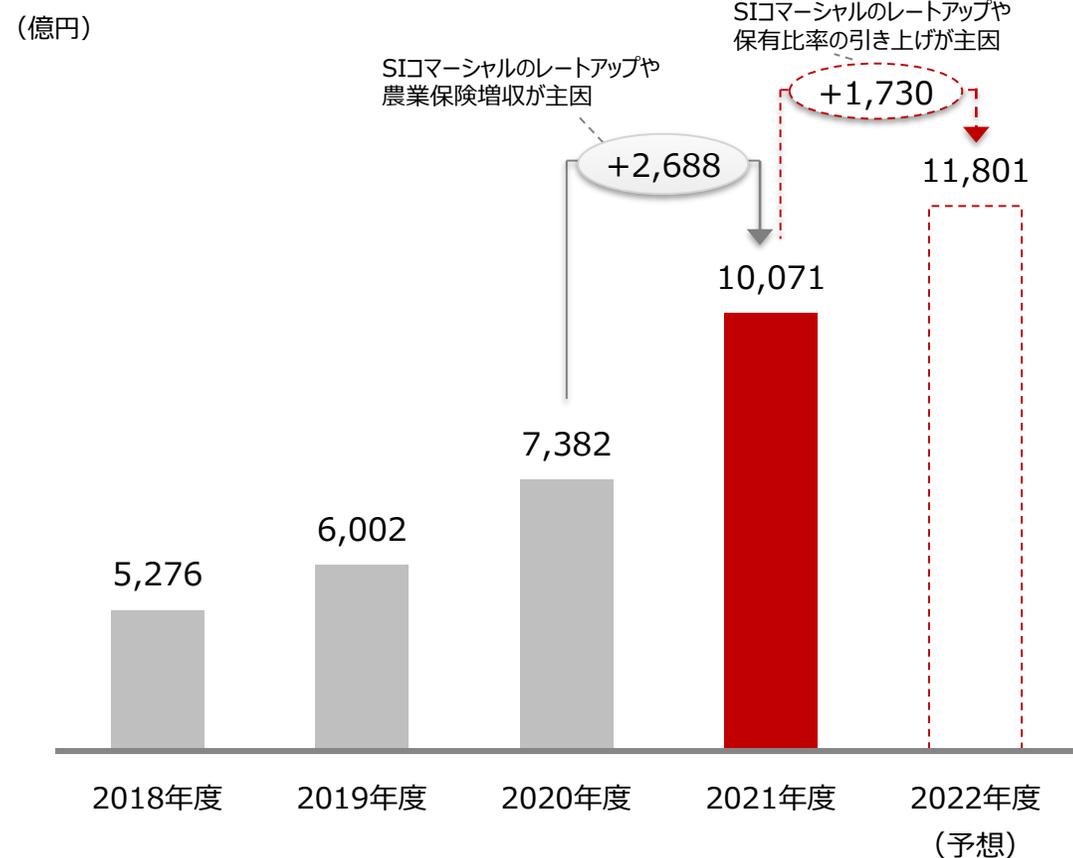
# 業績概況（海外保険事業）

- SIコマースの増収が牽引し、2021年度の海外保険事業の修正利益は+318億円増益の618億円
- 2022年度は、SIコマースのさらなる増収に加え、Sompoセグロスの前年度の一過性要因剥落もあり、修正利益は1,000億円を見込む

## 修正利益※



## (参考) 収入保険料※

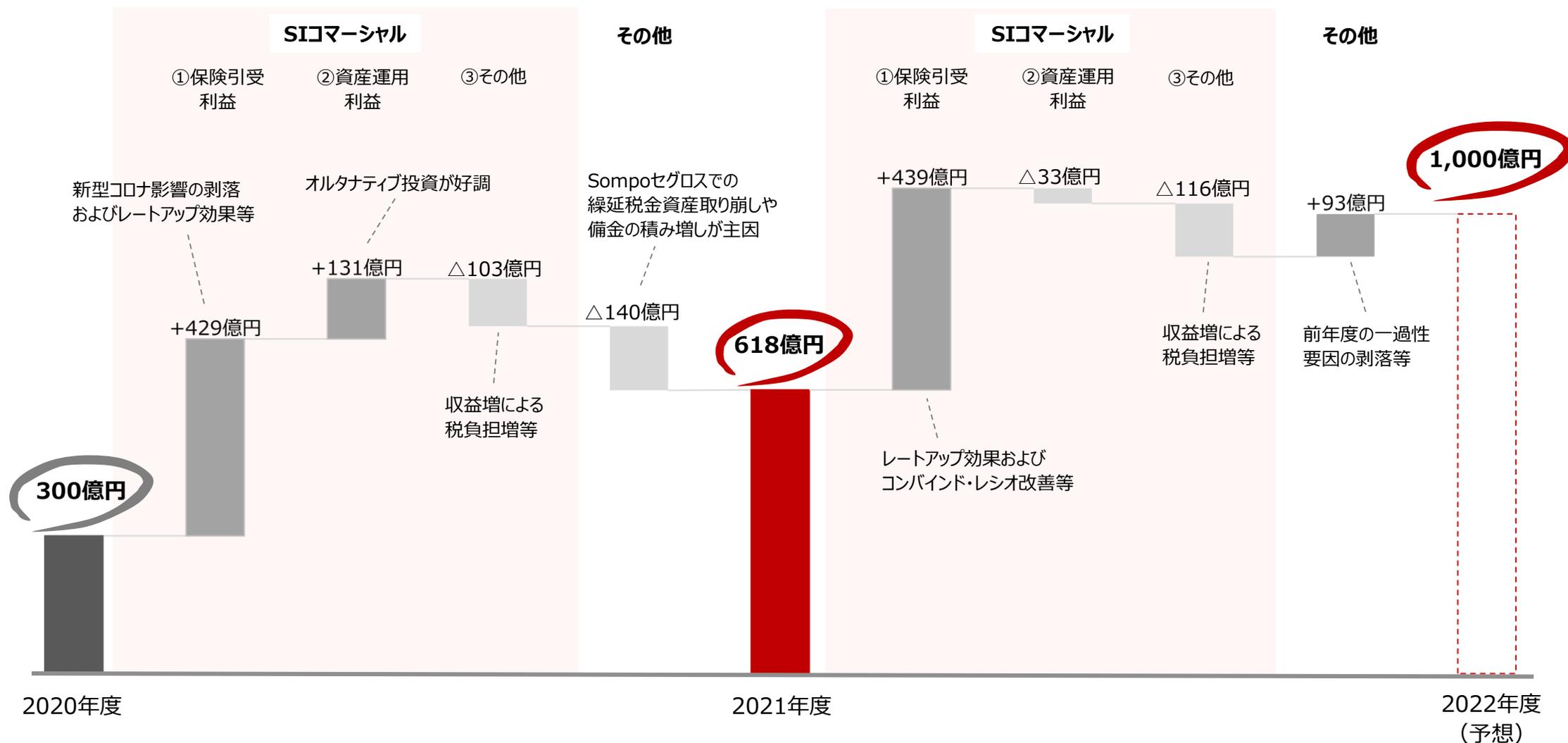


※ 収入保険料は、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる。修正利益は、持分割合の反映などの調整を行っている

# 修正利益の増減要因

## 修正利益の増減要因（2021年度実績）

## 修正利益の増減要因（2022年度予想）



# 地域別業績

(単位：億円)		収入保険料			修正利益			2021年度決算のポイント	(参考) 為替レート	
		2021年度		2022年度	2021年度		2022年度		2021年12月※2 (対前年為替影響)	
		実績	増減	予想	実績	増減	予想			
欧米	SIコマーシャル	8,700	+2,612	10,383	646	+458	935	P32～P34参照	115.02 円/米ドル	(+11.1%)
中東	Sompoシゴルタ (トルコ)	247	△54	245	41	△21	37	修正利益は、自動車の修理費単価増による損害率上昇や、リラ安による為替影響を主因に減益。	9.06 円/リラ	(△35.1%)
アジア	ベルジャヤソンポ (マレーシア) 等	464	+72	532	79	+29	57	ベルジャヤソンポと東アジア地域を中心に修正利益増益。	-	-
南米	Sompoセグロス (ブラジル)	607	+43	559	△158	△142	△10	トップラインは、自動車保険の改善により増収。 修正利益は、一過性要因の繰延税金資産の取り崩しや 備金計上を主因に減益。	20.20 円/リアル	(+1.6%)
その他※1		50	+14	80	9	+4	△18	-	-	-
合計		10,071	+2,688	11,801	618	+318	1,000	-	-	-

※1 非連結会社などを含む

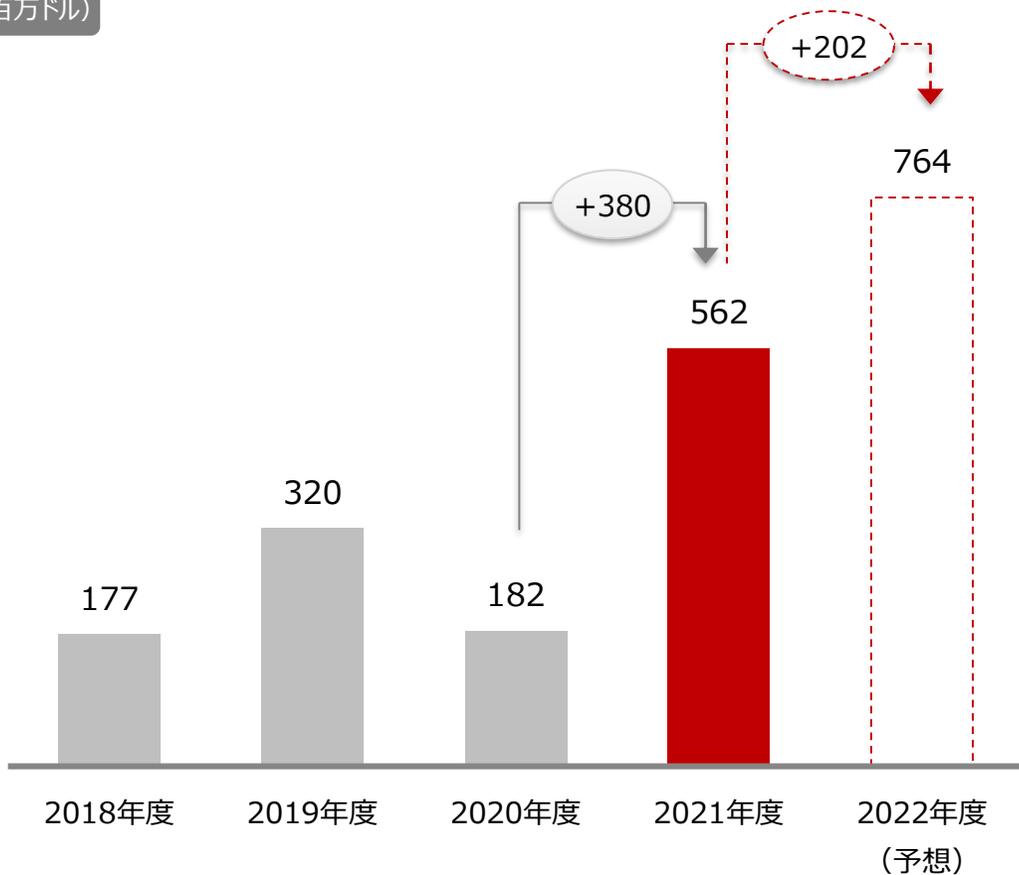
※2 通期業績予想における前提為替レートは2022年3月末時点を使用

# (参考) SICマーシャルの業績概況

- 2021年度は、トップラインの増収効果に加え、新型コロナ影響の剥落や運用収益の改善などを主因に、修正利益は+380百万ドルの増益
- 2022年度の修正利益は、レートアップ効果を主因に、+202百万ドルの増益を見込む

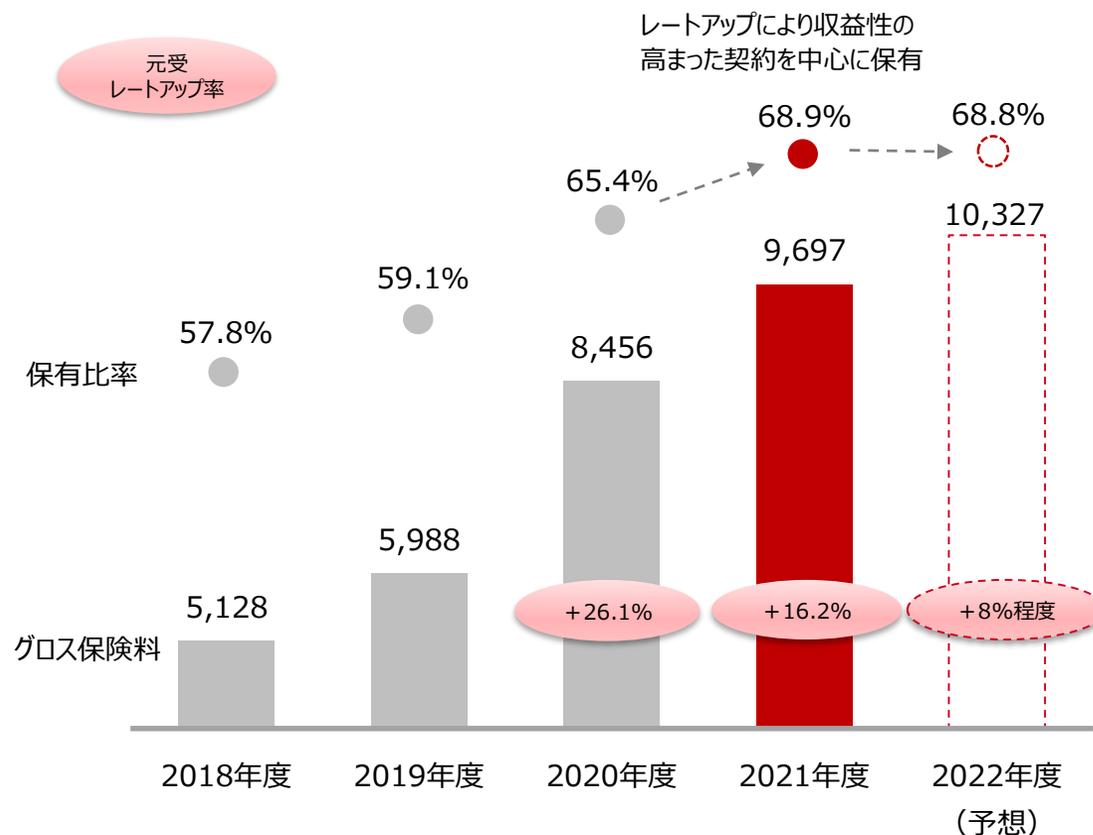
## 修正利益

(百万ドル)



## グロス保険料と保有比率\*

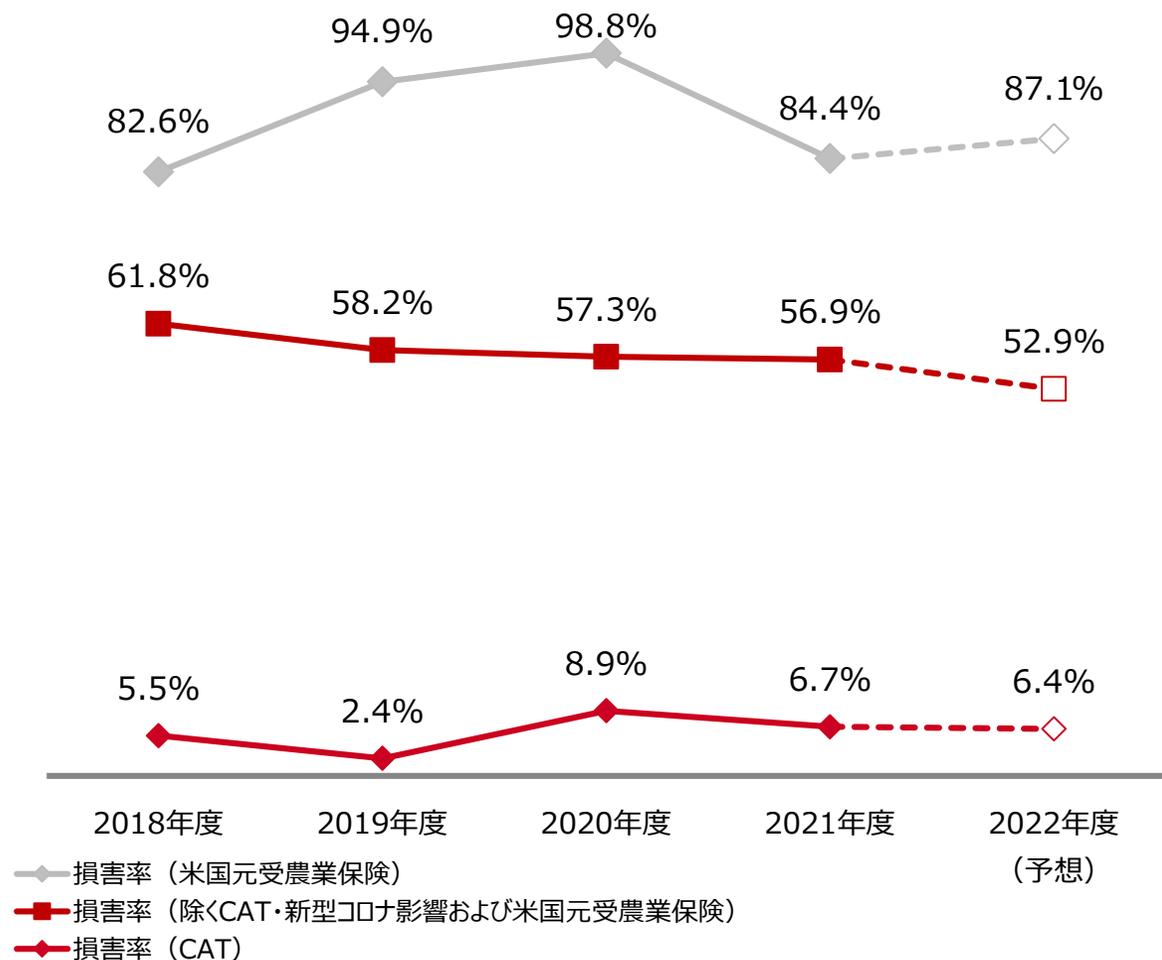
(百万ドル)



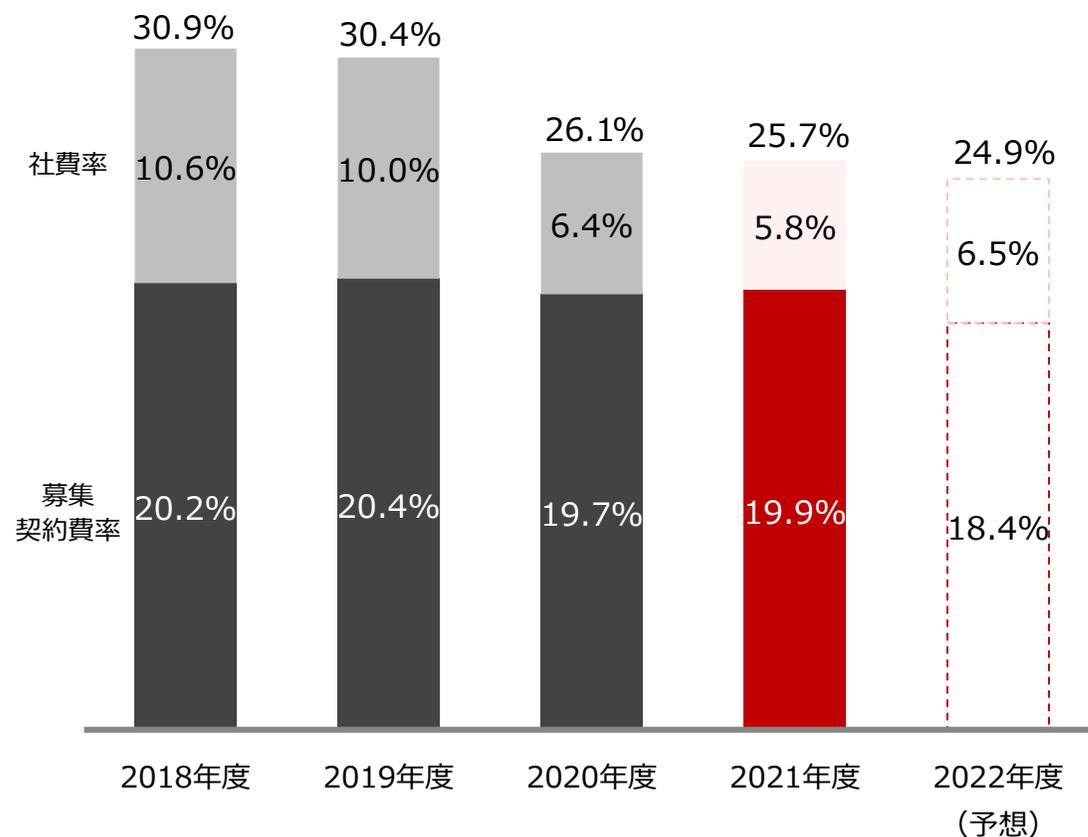
\* 除く米国元受農業保険

# (参考) SICマーシャルの収益性関連の指標

## 損害率 (当年度発生)



## 事業費率



# (参考) SICOMARシャルの決算数値

	2020年度	2021年度		2022年度	
	(実績)	(実績)	対前年増減	(予想)	対前年増減
(百万ドル)					
グロス保険料	9,354	12,272	+2,918	12,861	+589
正味保険料	5,882	7,564	+1,682	8,483	+919
既経過保険料	4,642	6,889	+2,247	8,138	+1,248
発生保険金	3,326	4,697	+1,371	5,349	+651
事業費	1,212	1,769	+556	2,028	+259
損害率※1	71.7%	68.2%	△3.5pt	65.7%	△2.5pt
事業費率※1	26.1%	25.7%	△0.4pt	24.9%	△0.8pt
コンバインド・レシオ※1	97.8%	93.9%	△3.9pt	90.7%	△3.2pt
保険引受利益	58	426	+367	759	+333
資産運用利益	245	335	+89	287	△47
その他損益	43	△255	△298	△97	+157
当期純利益	285	427	+141	764	+337
(参考) 為替損益	+32	△59	△92	-	-
有価証券売却・減損損失等※2	△154	220	+374	-	-
税効果	+18	△25	△43	-	-
修正利益	182	562	+380	764	+202

→ 有価証券未実現損などが主因  
(連結消去)

※1 損害率、事業費率、コンバインド・レシオ算出における分母は既経過保険料  
※2 未実現損益を含む

(参考) 農業保険既経過保険料の認識タイミング (季節性イメージ)  
1Q : 10~15% 2Q : 25~30% 3Q : 30~35% 4Q : 25~30%

---

1. 連結業績

---

2. 国内損保事業

---

3. 海外保険事業

4. 国内生保事業

5. 介護・シニア事業

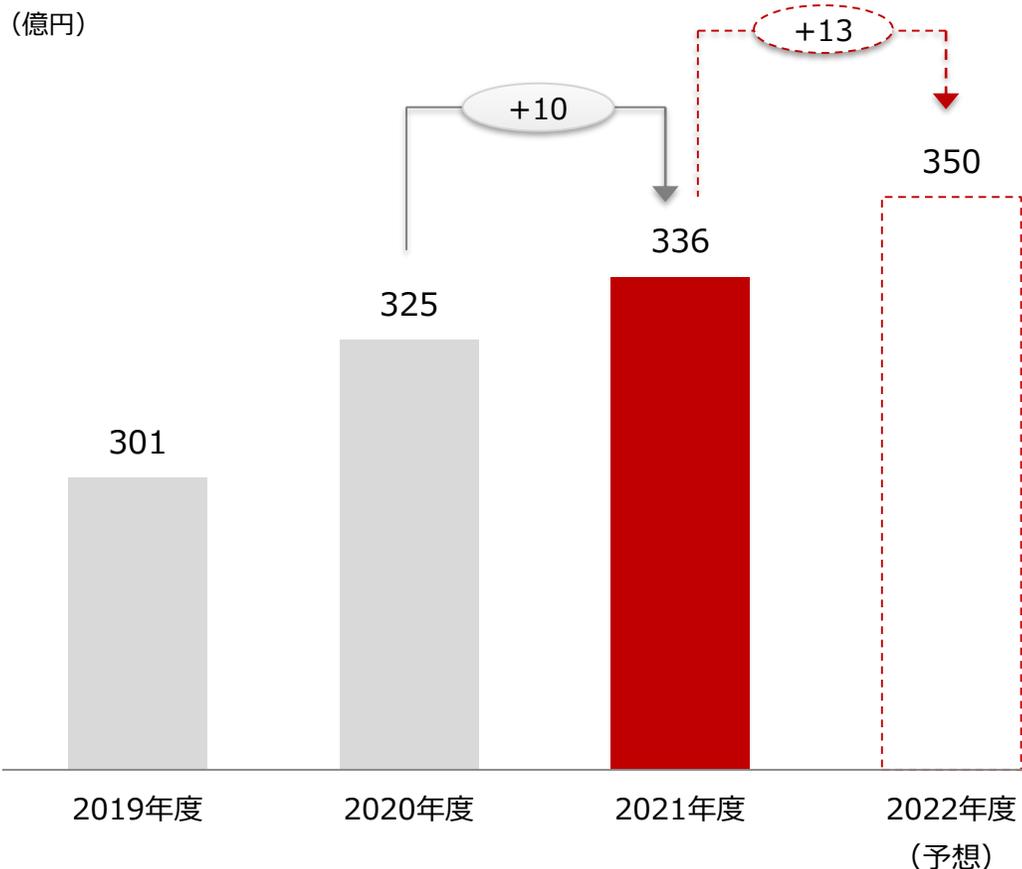
---

6. ERM・資産運用

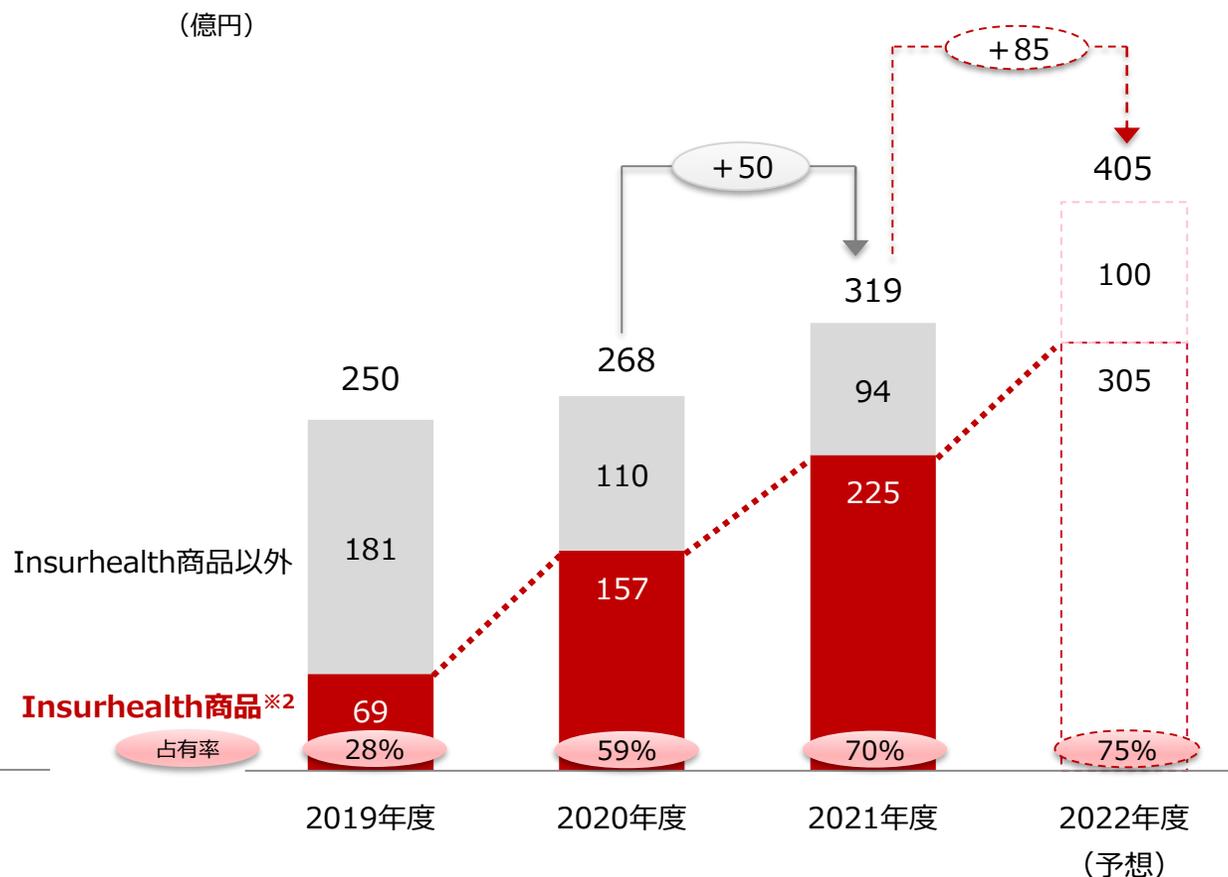
# 業績概要 (ひまわり生命)

- 保障性商品の保有契約が引き続き増加、2021年度の修正利益は+10億円増益の336億円
- 2021年10月発売の新がん保険などのInsurhealth®商品を中心に、新契約年換算保険料も着実に拡大

## 修正利益※1



## 新契約年換算保険料



※1 2020年度以前は修正利益の定義変更影響調整後 (2021年度より有価証券売却損益・評価損を除外)

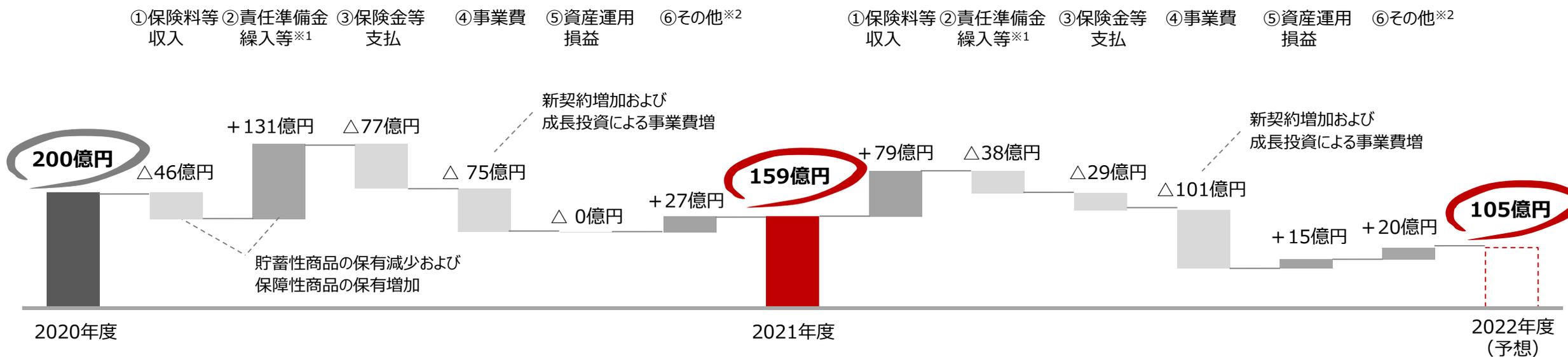
※2 保険本来の保障機能 (Insurance) に健康を応援する機能 (Healthcare) を組み合わせた新たな価値を提供する商品

# 当期純利益（ひまわり生命）

- 保障商品の保有契約増加の一方で、事業費増加もあり、2021年度の当期純利益は159億円
- 2022年度は、新契約を着実に増加させるとともに、成長投資による事業費増などの影響を見込み、当期純利益の予想は105億円

## 当期純利益の増減要因（2021年度実績）

## 当期純利益の増減要因（2022年度予想）



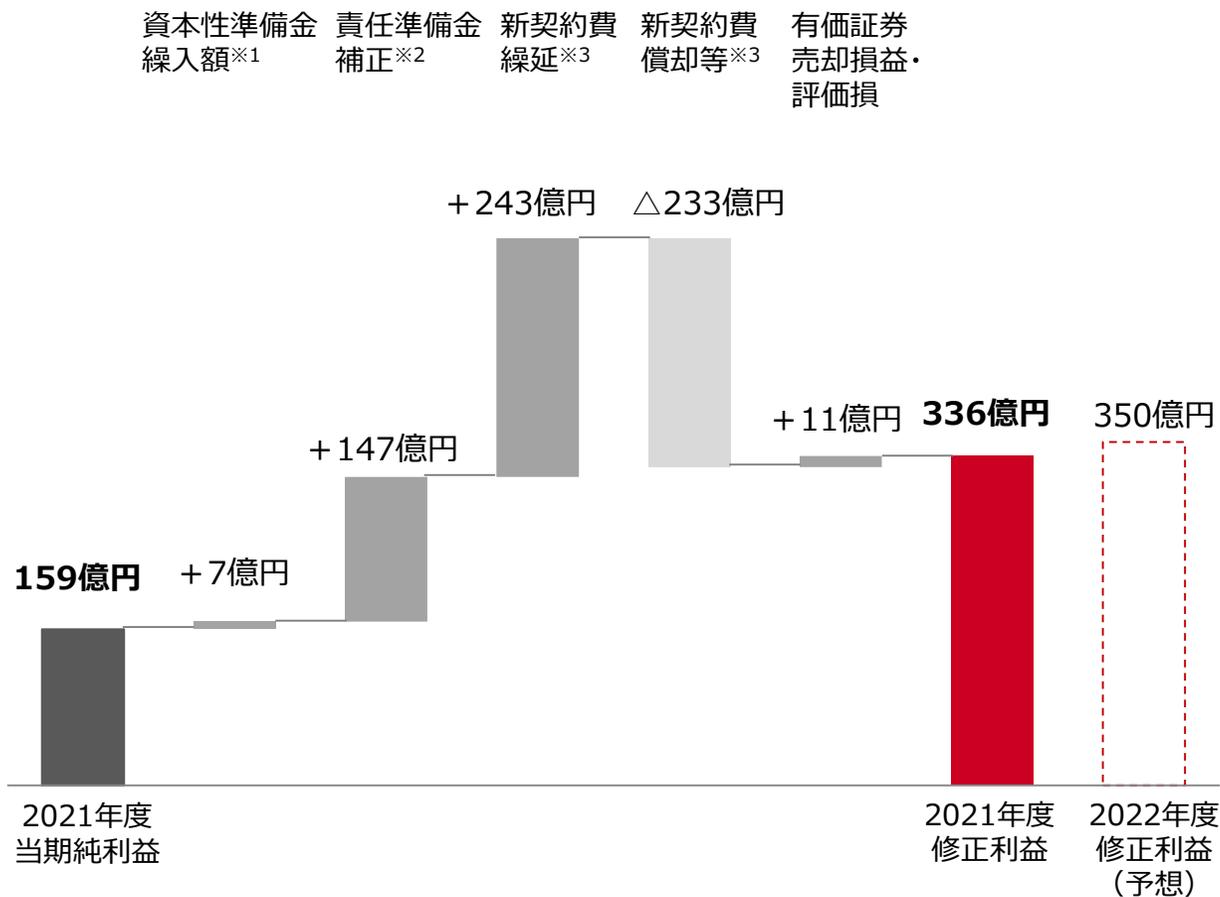
	①保険料等収入	②責任準備金繰入等	③保険金等支払	④事業費	⑤資産運用損益 (一般勘定)	⑥その他	当期純利益
2020年度	4,415億円	$\Delta 2,917$ 億円	$\Delta 726$ 億円	$\Delta 872$ 億円	485億円	$\Delta 183$ 億円	200億円
<b>2021年度</b>	<b>4,368億円</b>	<b><math>\Delta 2,786</math>億円</b>	<b><math>\Delta 803</math>億円</b>	<b><math>\Delta 948</math>億円</b>	<b>484億円</b>	<b><math>\Delta 155</math>億円</b>	<b>159億円</b>
2022年度 (予想)	4,448億円	$\Delta 2,825$ 億円	$\Delta 833$ 億円	$\Delta 1,049$ 億円	500億円	$\Delta 135$ 億円	105億円

※1 保険金備金（除く満期保険金備金）、給付金備金（除く生存給付金備金）繰入取崩影響を含む

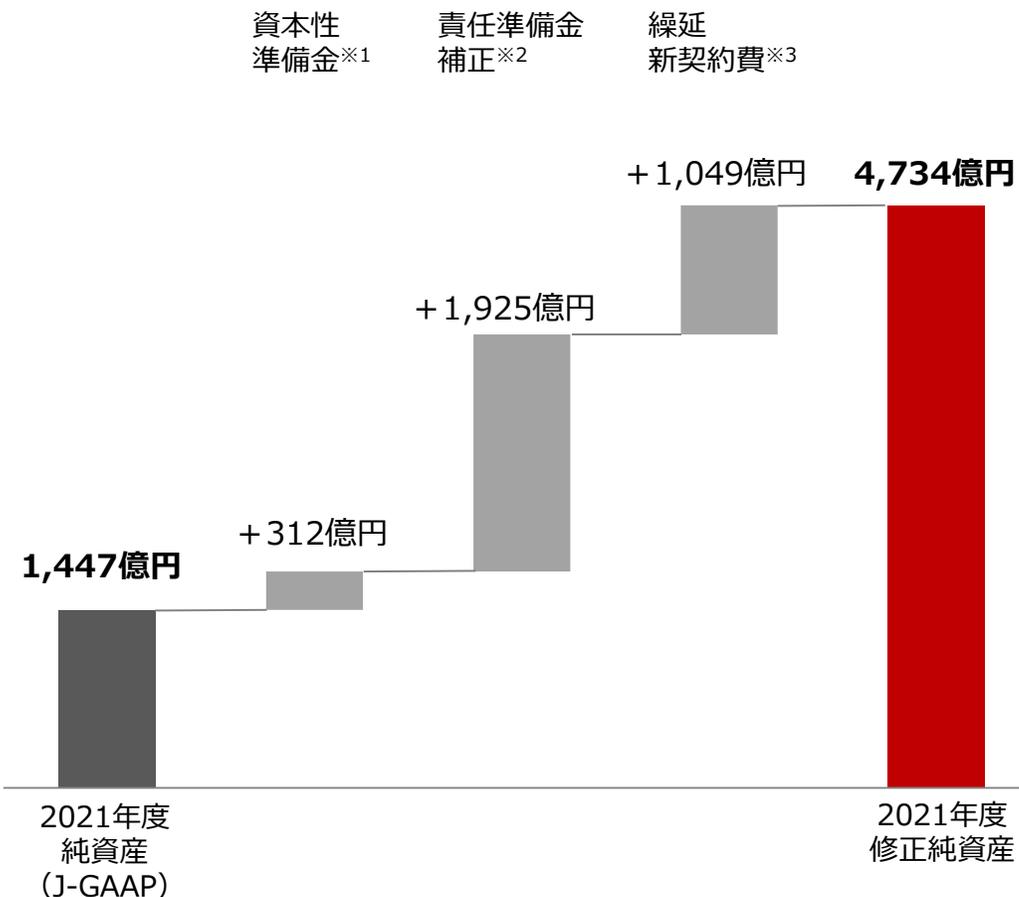
※2 その他経常損益、特別損益、契約者配当準備金繰入、法人税等の合計

# (参考) 修正利益・修正純資産

## 当期純利益から修正利益へのコンバージョン



## 修正純資産



※1 危険準備金、価格変動準備金 (税引後)

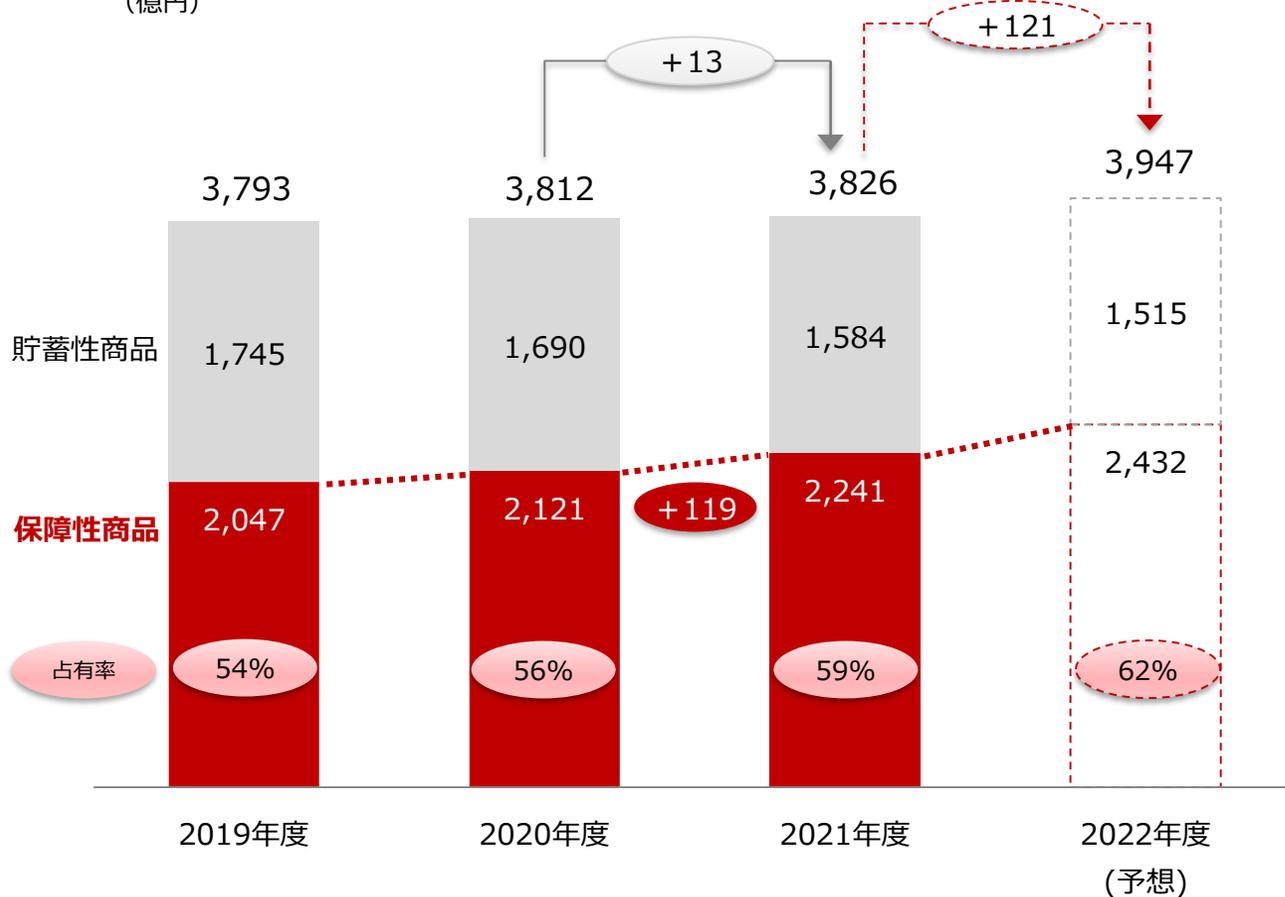
※2 保守的に計算している責任準備金を保険料計算に用いる基礎率により再計算 (税引後)

※3 契約初年度に発生する募集手数料等の新契約費を10年間で償却 (税引後)

# (参考) 保有契約年換算保険料・一般事業費

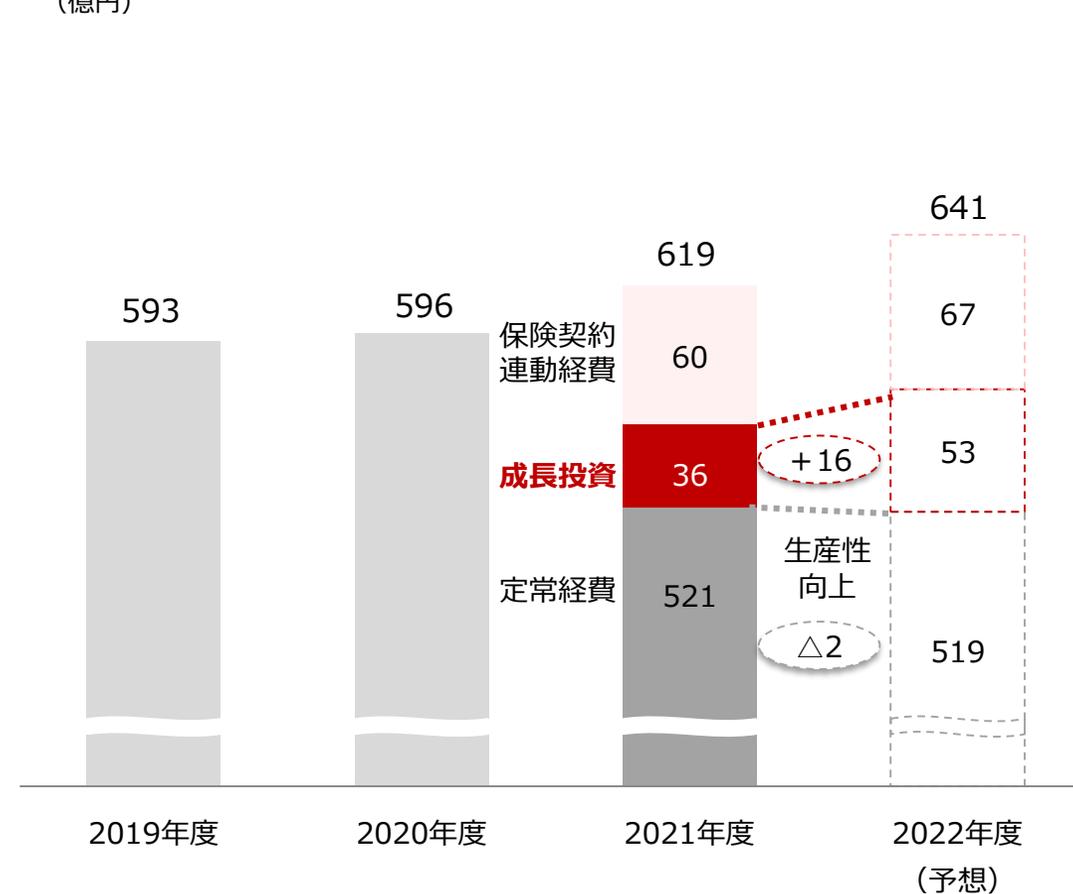
## 保有契約年換算保険料の推移

(億円)



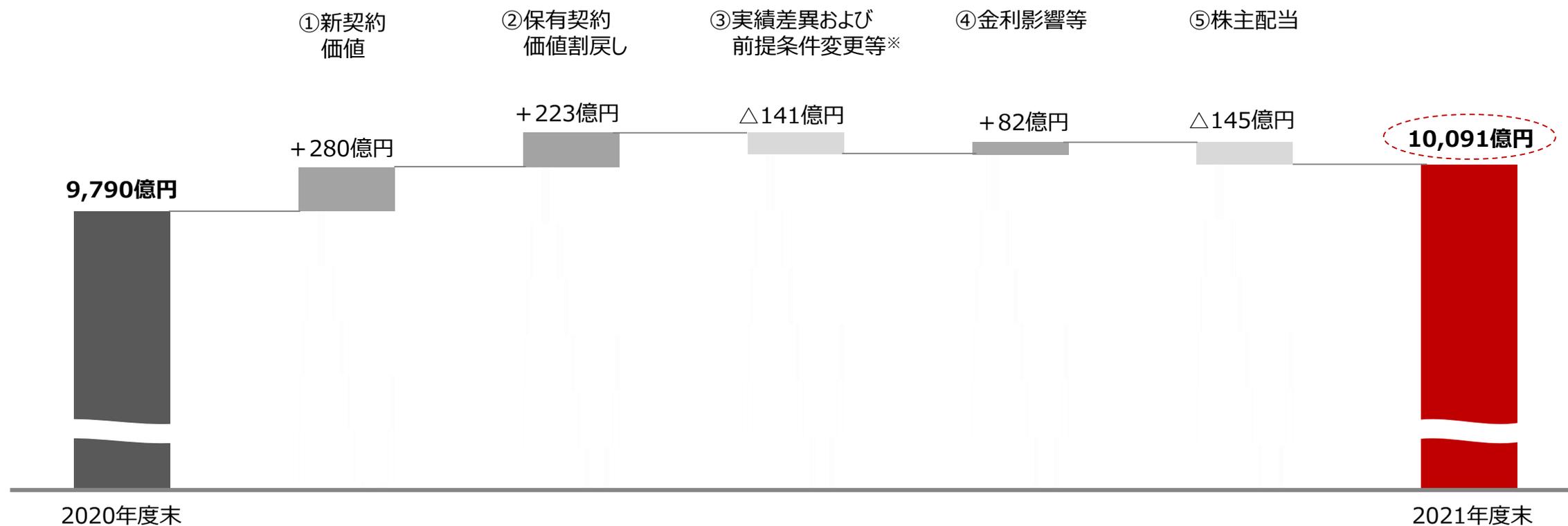
## 一般事業費の推移

(億円)



# (参考) MCEV

## MCEVの増減要因



※ 解約率の前提条件変更等

## (参考) 決算数値

### 主要業績

(単位：億円)	2020年度	2021年度	増減		2022年度 (予想)
新契約年換算保険料	268	319	+50	(+18.9%)	405
保険料等収入※1	4,415	4,368	△46	(△1.1%)	4,448
責任準備金繰入等※2	2,917	2,786	△131	(△4.5%)	2,825
保険金等支払	726	803	+77	(+10.7%)	833
事業費	872	948	+75	(+8.6%)	1,049
資産運用損益	534	502	△32	(△6.0%)	518
(うち一般勘定)	485	484	△0	(△0.2%)	500
基礎利益	318	275	△42	(△13.3%)	225
経常利益※1	321	264	△56	(△17.7%)	187
当期純利益	200	159	△41	(△20.6%)	105
修正利益※3	325	336	+10	(+3.3%)	350

※1 法令に則った生命保険会社の様式に基づく数値（連結様式とは異なる）

※2 解約返戻金、満期保険金、生存給付金、年金、その他返戻金支払影響および特別勘定資産運用損益を含む

※3 2020年度は修正利益の定義変更影響調整後（2021年度より有価証券売却損益・評価損を除外）

---

1. 連結業績

---

2. 国内損保事業

---

3. 海外保険事業

---

4. 国内生保事業

---

5. 介護・シニア事業

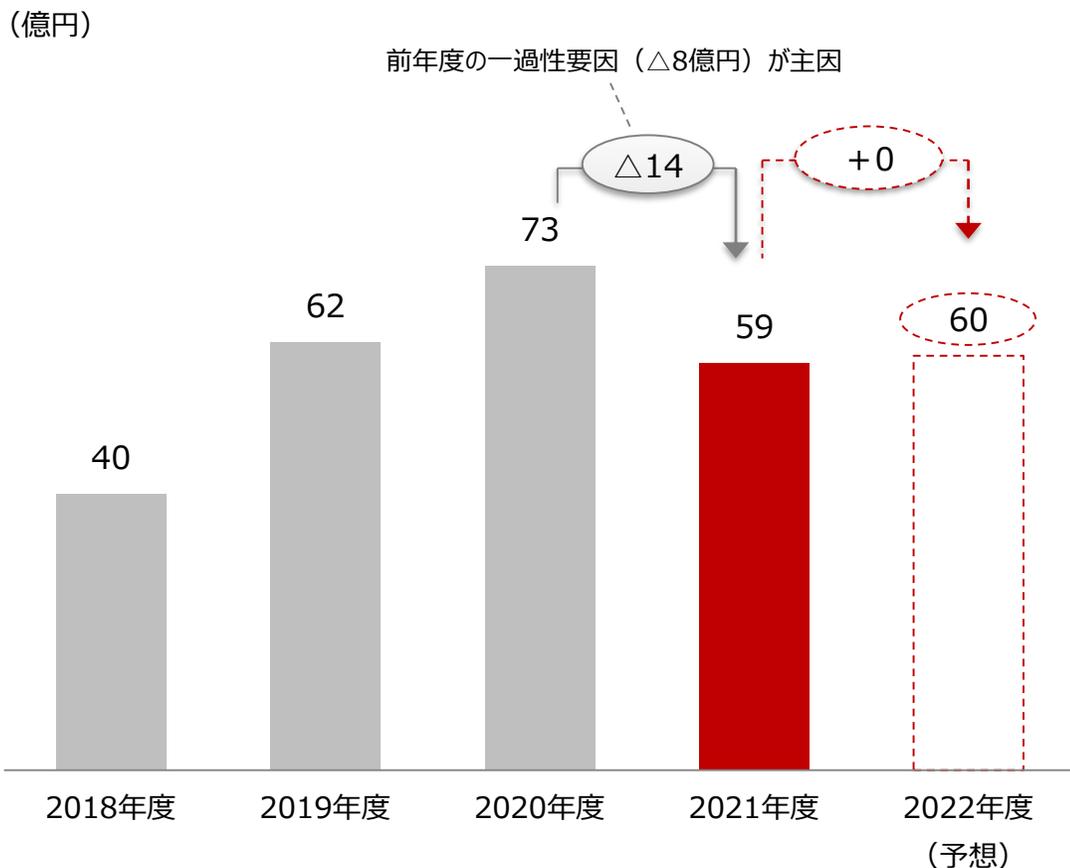
---

6. ERM・資産運用

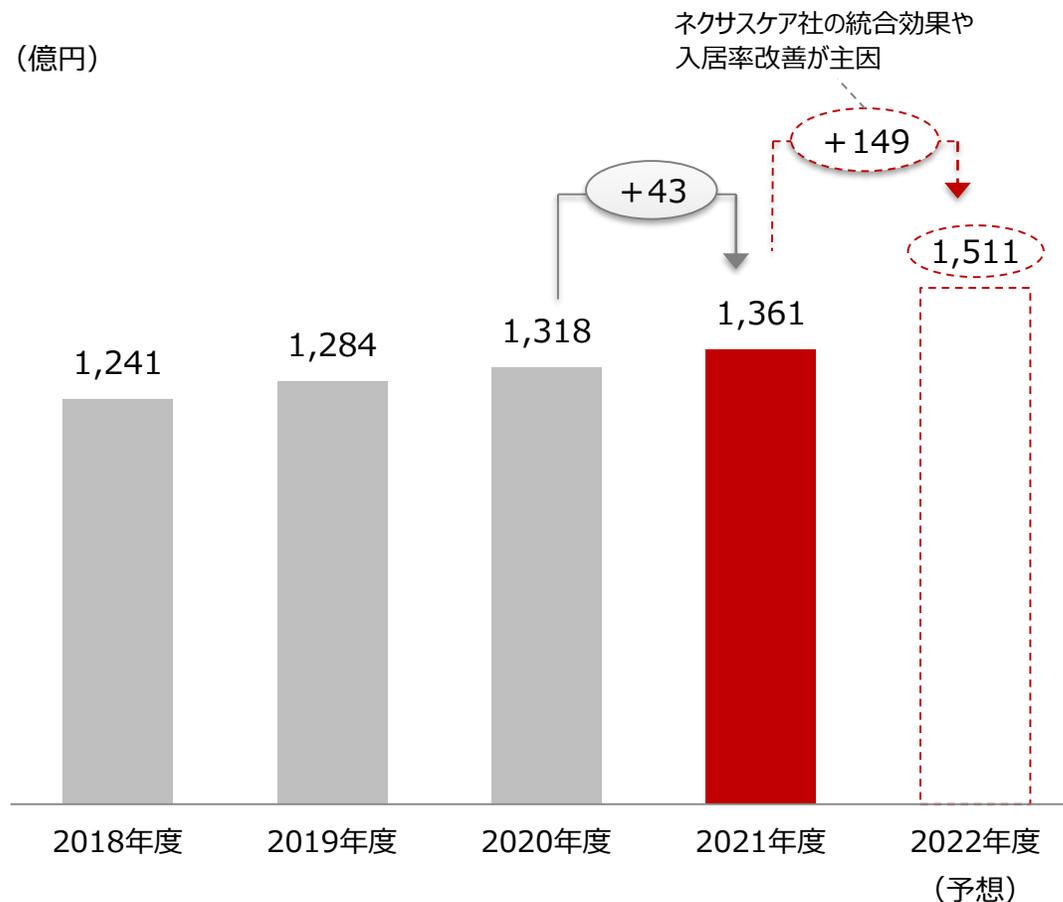
# 業績概況（介護・シニア事業）

- SOMPOケアの2021年度の修正利益は、前年度の一過性要因の剥落などを主因に△14億円減益
- 2022年度の売上高は、ネクサスケア社の統合効果等により大幅増収、修正利益は2021年度と同水準を見込む

## SOMPOケアの修正利益

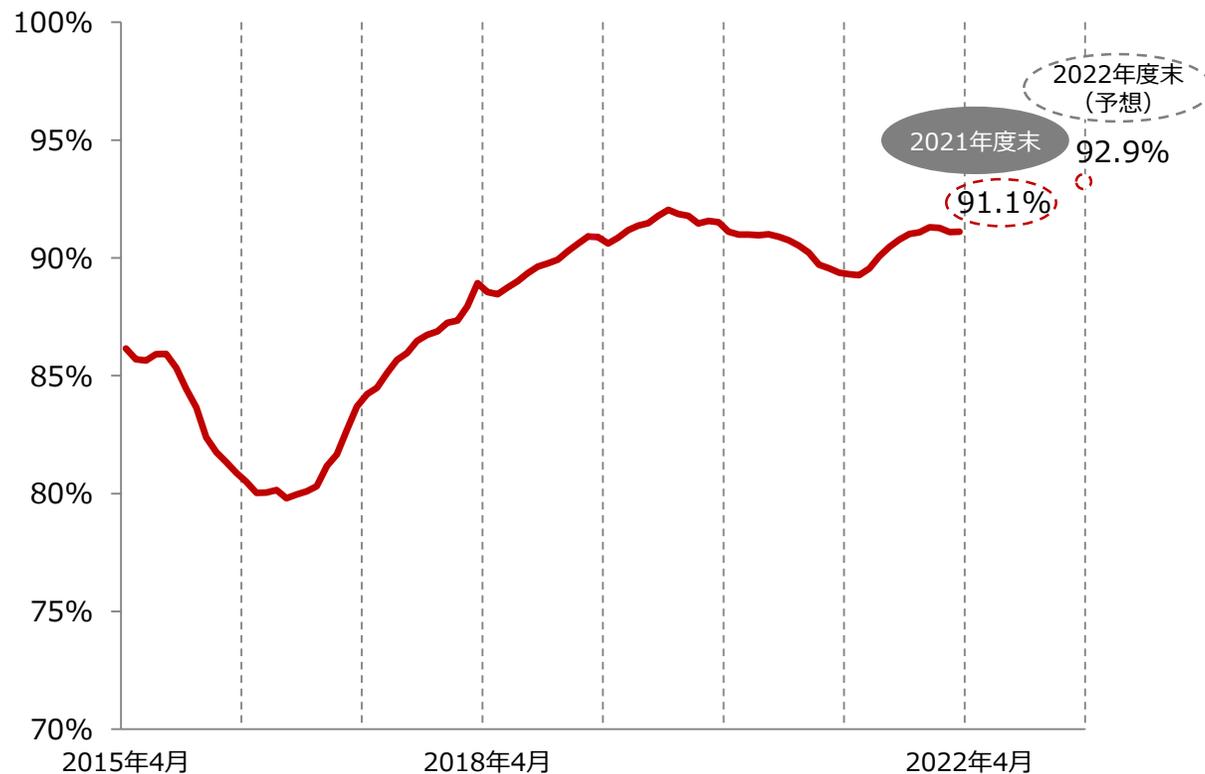


## SOMPOケアの売上高

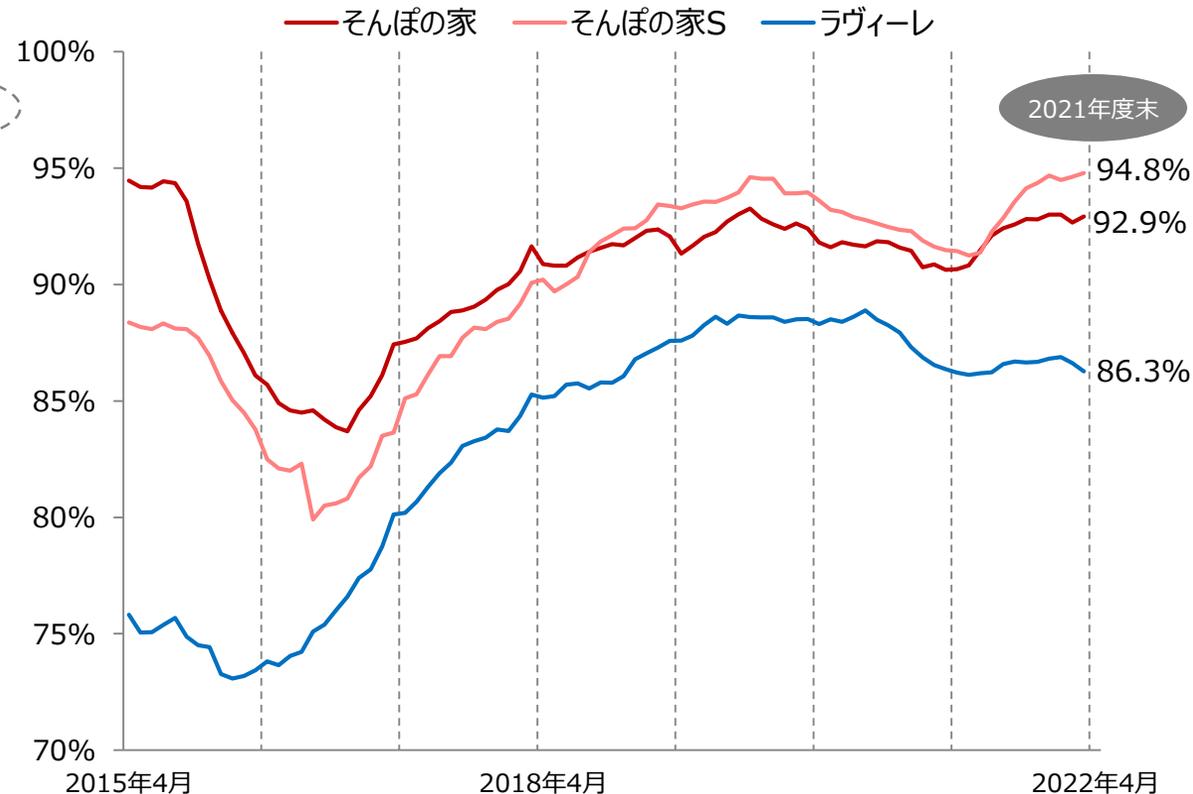


# SOMPOケアの主要指標

## 入居率※1※2の推移



## (参考) ブランド別入居率※3の推移



※1 入居率 = 入居者数 ÷ 施設定員数  
 ※2 旧SOMPOケア・旧SOMPOケアネクストの入居率を統合して記載

※3 そんぽの家は旧SOMPOケアの介護付きホーム、  
 そんぽの家Sは同社のサービス付き高齢者向け住宅、  
 ラヴィーレは旧SOMPOケアネクストの介護付きホームを示すブランド名

---

1. 連結業績

---

2. 国内損保事業

---

3. 海外保険事業

---

4. 国内生保事業

---

5. 介護・シニア事業

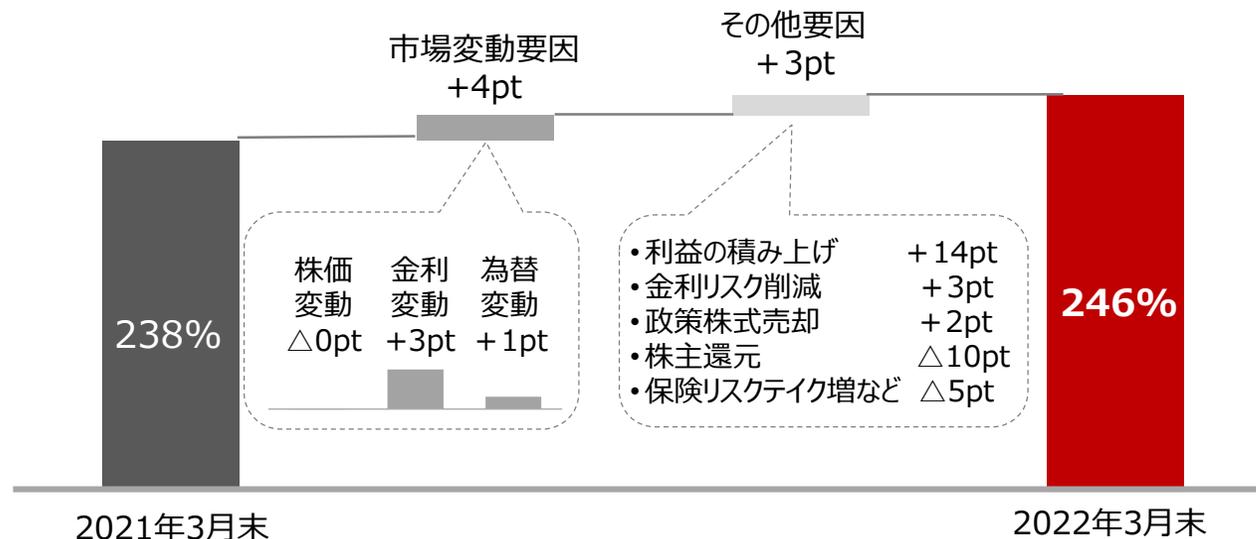
---

6. ERM・資産運用

# 財務健全性：ESR（99.5%VaR）

- 2022年3月末のESR（99.5%VaR）は246%

## ESR（99.5%VaR）※1の推移



※1 ソルベンシー II に準拠した算出方法

ESR（99.5%VaR）におけるターゲット資本水準は、200%～270%

270%水準：資本効率（修正連結ROE）の観点を踏まえた水準

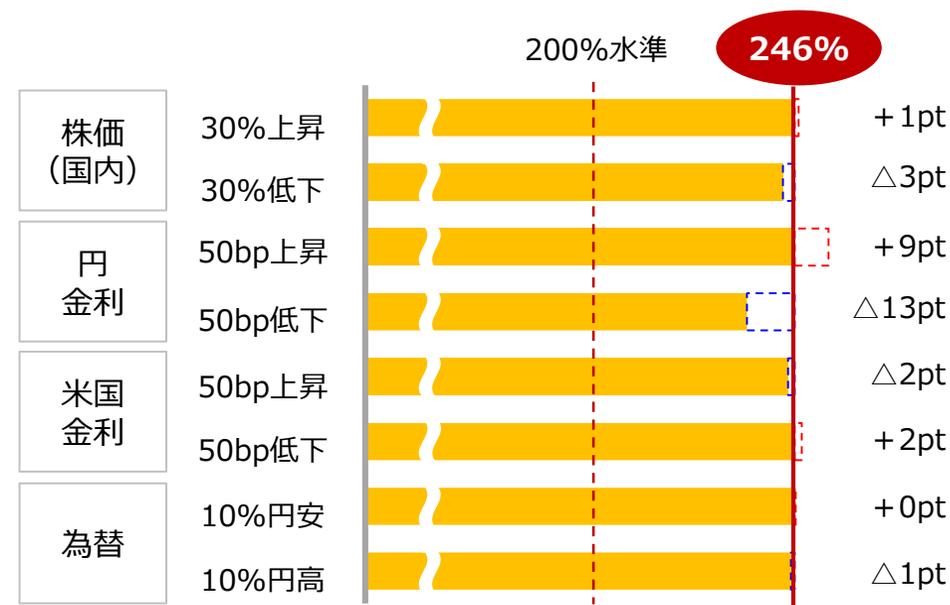
200%水準：ストレステストの結果などを踏まえ、財務健全性を安定的に確保可能な水準

恒常的にターゲットレンジ外の水準となる場合の代表的な対応

【270%超】 追加的リスクテイク（成長投資）の検討、積極的な株主還元の検討など

【200%未滿】 各種リスク削減策の実施、ハイブリッド債等による資本増強の検討、内部留保強化など

## ESR（99.5%VaR）の感応度分析

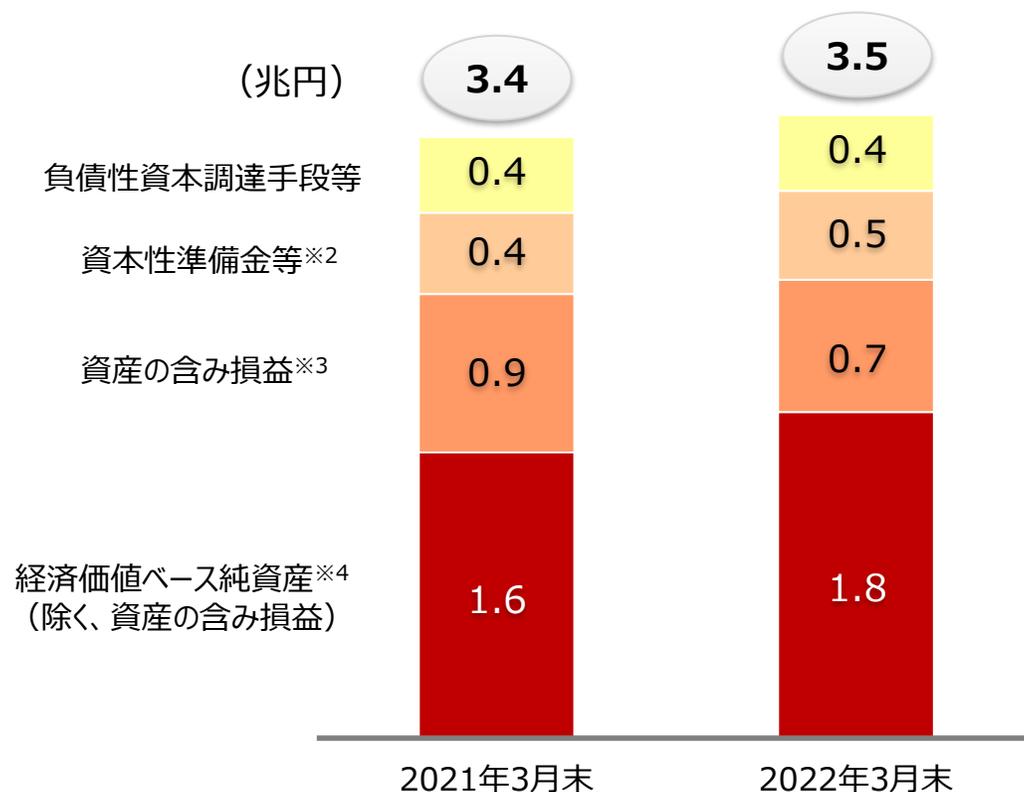


（参考）市場環境	2022年3月末	（増減※2）
国内株価（日経平均株価）	27,821円	（△4.7%）
国内金利（30年物国債利回り）	0.94%	（+27bp）
米国金利（10年国債利回り）	2.34%	（+60bp）
為替（米ドル円レート）	122.39円	（+10.6%）

※2 2021年3月末対比

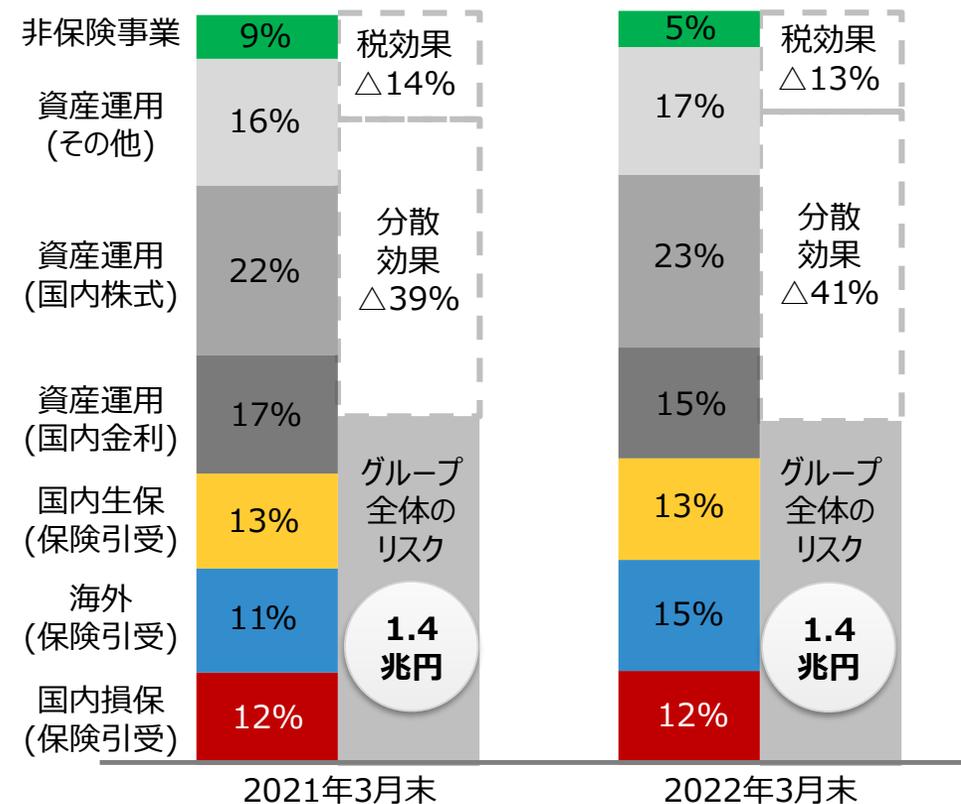
## (参考) 実質自己資本・リスク量のブレイクダウン

### 実質自己資本※1



- ※1 実質自己資本 = 単体BS純資産合計額 + 保有契約価値 - のれん等  
+ 時価評価しない資産の含み損益 + 資本性準備金等 + 負債性資本調達手段等
- ※2 価格変動準備金、異常危険準備金など (税引後)
- ※3 時価評価しない資産を含めた有価証券等の含み損益
- ※4 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算 (のれんや非支配株主持分等は控除)

### リスク量※5

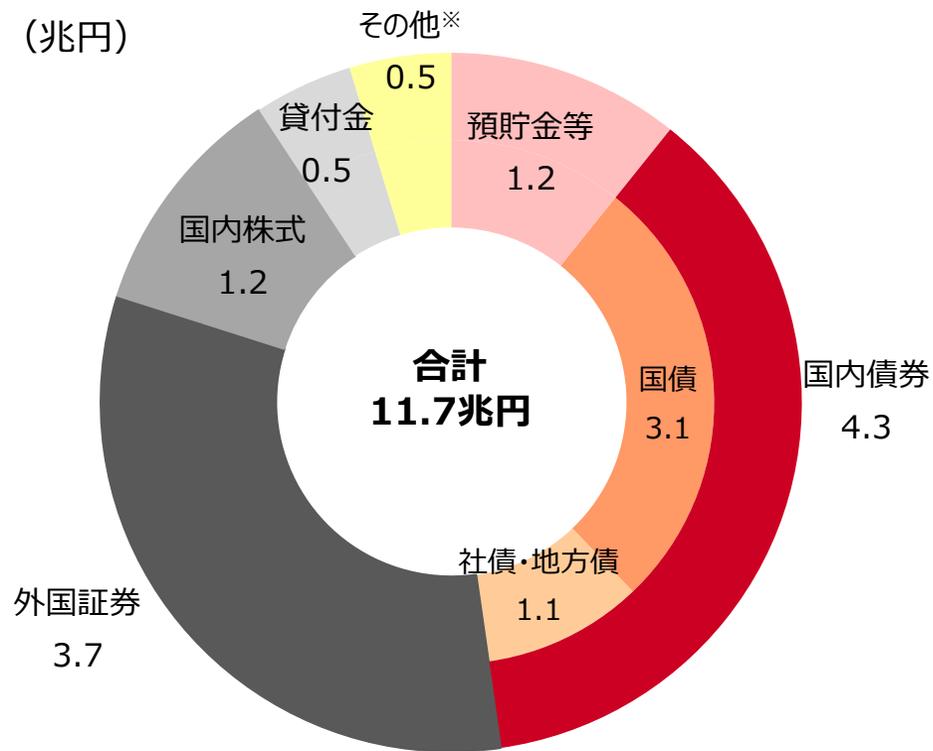


- ※5 リスク量は保有期間1年、99.5%VaRで計測
- リスク要因毎のリスク量：リスク要因間の分散効果等控除前 (税引前)
- グループ全体のリスク：リスク要因毎のリスク量合計 - 分散効果 - 税効果

## 資産ポートフォリオ（グループ連結ベース）

- 負債特性や流動性・安全性などを踏まえ、債券を中心とした安定的なポートフォリオを構築

### 運用資産額（2022年3月末、グループ連結ベース）



### グループ会社別運用資産額

(単位：億円)

	運用資産額	構成比
損保ジャパン	55,528	47%
海外グループ会社	19,954	17%
ひまわり生命（一般勘定）	38,008	32%
セゾン自動車火災	677	1%
国内その他	3,387	3%
<b>合計</b>	<b>117,556</b>	<b>100%</b>

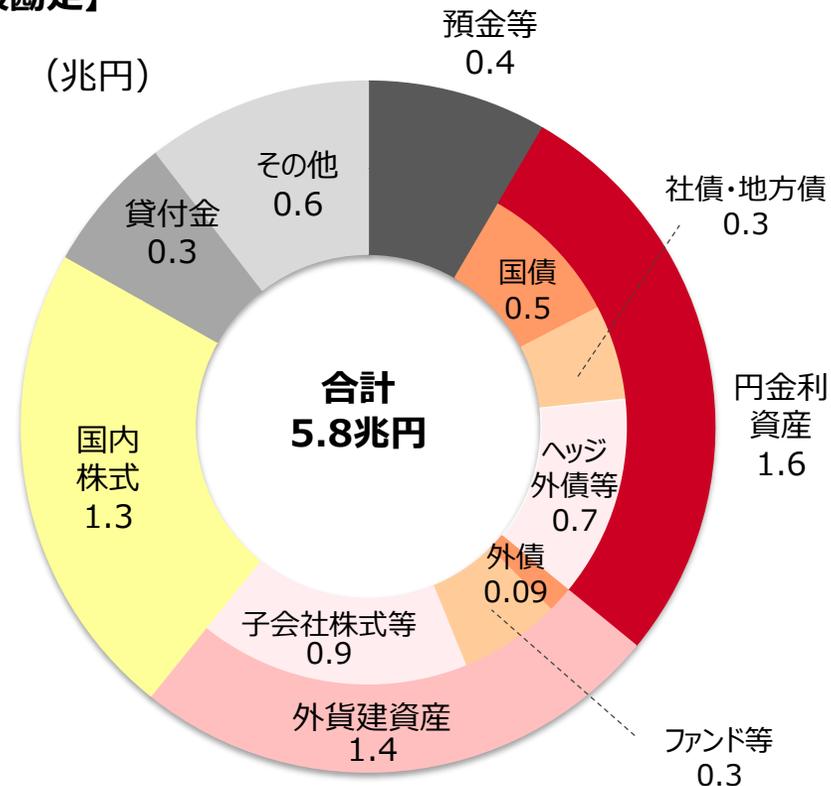
※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

# 資産ポートフォリオ（損保ジャパン）

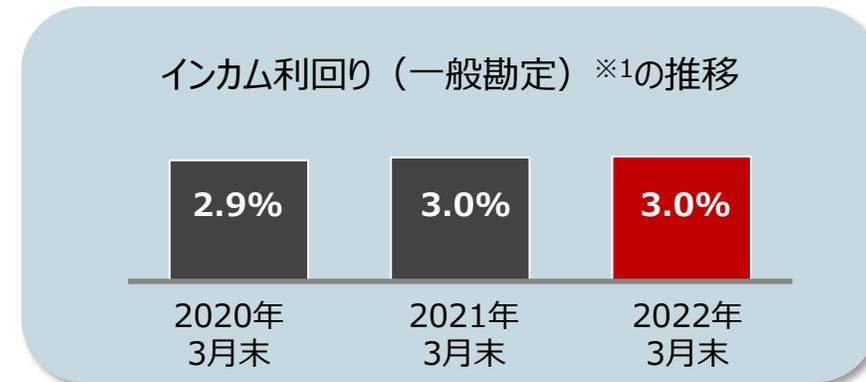
- 政策株式の削減、分散投資の推進を基本とするポートフォリオ・マネジメントを継続

## 運用資産額（2022年3月末、損保ジャパン単体ベース）

### 【一般勘定】



### インカム利回り（一般勘定）※1の推移



### 格付別構成比※2

社内格付	構成比
BBB格以上	100%
BB格以下	-

### デュレーション（年）

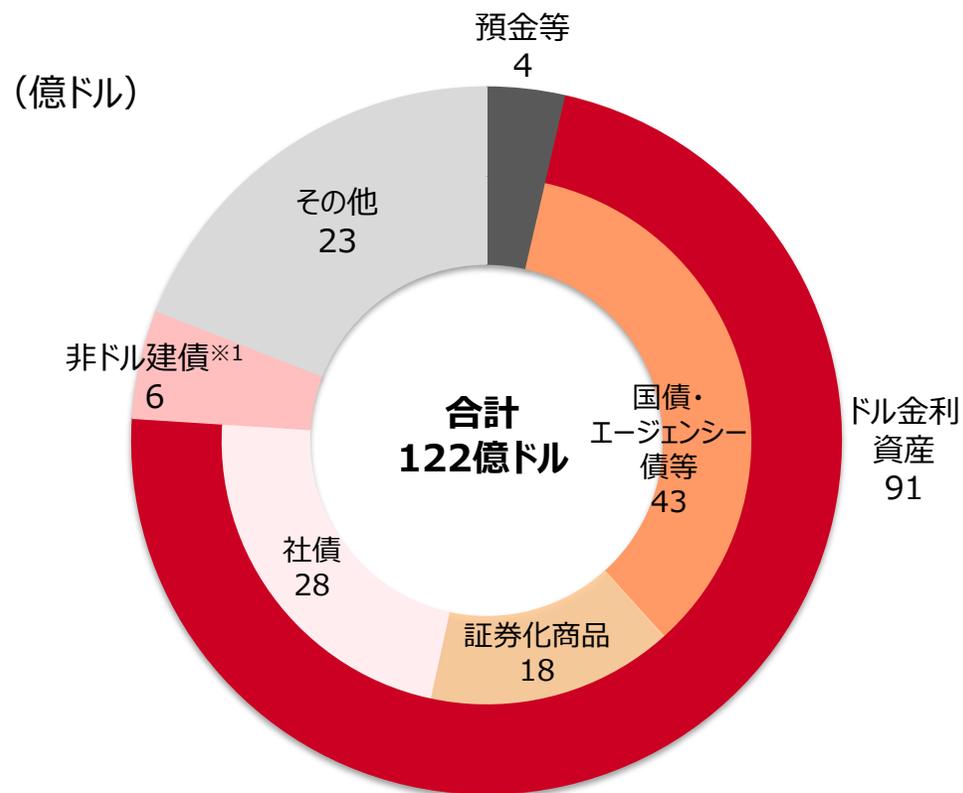
	2021年3月末	2022年3月末
資産	8.2	7.9
負債	8.3	7.7

※1 海外グループ会社株式等を除く  
 ※2 円金利資産、外貨建債券の合計

## 資産ポートフォリオ（SIコマース）

- ドル金利資産への投資をベースとしつつ、負債特性を踏まえ、流動性・安全性を重視した運用を継続

### 運用資産額（2021年12月末）



### 格付別構成比※2

社内格付	構成比
BBB格以上	90%
BB格以下	10%

### デュレーション (年)

	2020年 12月末	2021年 12月末
資産	2.9	3.1
負債	3.4	3.1

(参考) 2021年12月末のインカム利回り（一部ファンドの未実現損益等の変動を含む）は3.0%

※1 一部預金含む

※2 債券資産の合計

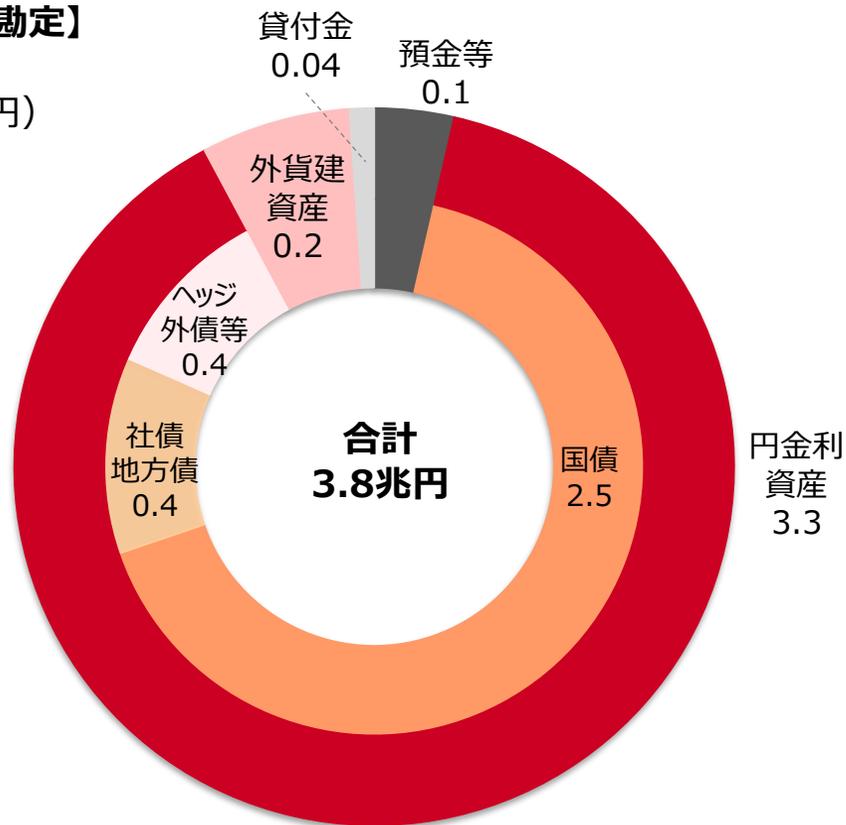
## 資産ポートフォリオ（ひまわり生命）

- 円金利資産を中心としたALM重視のポートフォリオを構築しつつ、国内の低金利環境を踏まえ、社債投資等へも配分

### 運用資産額（2022年3月末、ひまわり生命単体ベース）

【一般勘定】

(兆円)



インカム利回り（一般勘定）の推移



格付別構成比※

社内格付	構成比
BBB格以上	100%
BB格以下	-

デュレーション（年）

	2021年3月末	2022年3月末
資産	15	16
負債	26	24

(参考) 2022年3月末の特別勘定の残高：257億円（主に国内株式・債券で運用）

※ 円金利資産、外貨建債券の合計

## 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 【お問い合わせ先】



**SOMPOホールディングス株式会社**

#### **I R 室**

電話番号 : 03-3349-3913

email : ir@sompo-hd.com

URL : <https://www.sompo-hd.com/>